

推進年度 「平成16年度～平成18年度」

事業名 「文部科学省：学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」

福島県推進地域 「郡山市」

# 学校図書館資源共有に関する 実践集



郡山市教育委員会

## は　じ　め　に

郡山市は、平成16年度より3ヵ年にわたり、文部科学省「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」の福島県推進地域として調査研究を進めて参りました。本市では、44小・中学校に協力を依頼し、おもに以下の内容について研究を進めました。

- ① 学校図書館資源共有システムの開発に関すること
- ② 司書教諭、図書館担当事務職員（司書補）の資質向上・連携に関すること
- ③ 蔵書の整備や充実に関すること

一つ目の「学校図書館資源共有システムの開発」に関しましては、現場の先生方や学校図書館担当職員の生の声をできるだけ反映させた、使い勝手のよいシステムとなるよう、開発の依頼先にもお骨折りをいただきました。その成果として、協力校以外にもシステム導入を望む声が多くなり、平成18年度末現在、85校中75校が導入を完了させることができました。

二つ目の「司書教諭や学校図書館担当職員の資質向上・連携」に関しましては、実際に学校図書館の業務に携わる職員同士で研修会を実施し、システムの操作やトラブル対処、その他の情報交換などを行いました。今後の継続した連携の体制が確立できたものと認識しております。

三つ目の「蔵書の整備や充実」に関しましては、蔵書のデータベース化をきっかけとして廃棄蔵書を洗い出し、効率よく蔵書の更新を図ることができました。

このような成果を受け、この度「学校図書館資源共有に関する実践集」を刊行することとなりました。本資料は、協力校44校における資源共有システム活用の実践概要をまとめたもので、参考しやすいように1事例見開き2ページで簡潔に記述いたしました。各学校において参考資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本資料の作成にご尽力をいただきました学校図書館担当者の皆様はじめ、様々な観点からご助言を賜りました支援センター委員の皆様、そして県の担当部局の皆様に対しまして、心より御礼申し上げます。

平成19年3月

郡山市教育委員会学校教育課長 市川正道

## 目 次

### ○ はじめに

### 各学校の実践概要

| 学校名       | ページ | 学校名     | ページ |
|-----------|-----|---------|-----|
| 日和田小学校    | 1   | 大槻小学校   | 45  |
| 行健小学校     | 3   | 白岩小学校   | 47  |
| 行健第二小学校   | 5   | 東芳小学校   | 49  |
| 行徳小学校     | 7   | 桜小学校    | 51  |
| 安積第一小学校   | 9   | 大島小学校   | 55  |
| 安積第三小学校   | 11  | 小山田小学校  | 57  |
| 永盛小学校     | 13  | 朝日が丘小学校 | 59  |
| 河内小学校     | 15  | 宮城小学校   | 61  |
| 喜久田小学校    | 17  | 御館小学校   | 63  |
| 上伊豆島小学校   | 19  | 安積中学校   | 65  |
| 湖南小学校、中学校 | 21  | 安積第二中学校 | 67  |
| 御代田小学校    | 23  | 三穂田中学校  | 69  |
| 高瀬小学校     | 25  | 逢瀬中学校   | 71  |
| 芳山小学校     | 27  | 喜久田中学校  | 73  |
| 橋小学校      | 29  | 高瀬中学校   | 75  |
| 小原田小学校    | 31  | 郡山第三中学校 | 77  |
| 開成小学校     | 33  | 郡山第四中学校 | 79  |
| 桃見台小学校    | 35  | 郡山第五中学校 | 81  |
| 薰小学校      | 37  | 郡山第六中学校 | 83  |
| 富田小学校     | 39  | 郡山第七中学校 | 85  |
| 富田東小学校    | 41  | 富田中学校   | 87  |
| 富田西小学校    | 43  | 小原田中学校  | 89  |

# 郡山市立日和田小学校

郡山市日和田町字日向19

## 1. 学校概要

本校は、明治7年に開校し、今年で132周年を迎える伝統校である。伝説や史実に富み、地域には歴史的な建造物も多く存在している。

現在、学級数18、児童数497人。保護者には同窓生も多く、学校行事やボランティア活動などに協力的である。週一回行われる朝の読書タイムでも、保護者ボランティアによる読み聞かせが行われている。

## 2. 実践概要

### (1) 本年度の図書館教育の重点目標

- 学習に必要な図書を収集・整理し、学習センターとしての機能を高める。
- 読書を奨励するとともに読書をする機会を与え、良い読書習慣を身につけさせる。

### (2) 組織活動

#### ①図書館教育部

司書教諭、図書館司書を中心に、現職教育部との連携をはかりながら、計画の立案・運営を行っている。

#### ②児童図書委員会

- ・日常の貸し出し、返却
- ・図書の整理
- ・読み聞かせ会の実施
- ・読書週間の取り組み

### (3) 読書活動の推進

#### ①朝の読書タイム

毎週月曜日 8:10~8:25

全校で一斉に読書を行う。

#### ②必読図書の作成

朝の読書タイムの開始や児童の読書傾向が偏っているという実態、いろいろな本を読んでほしいという願いから各学年20冊程度の必読図書を設定した。

#### ③読み聞かせ会の実施

校長先生や図書委員、保護者ボランティアによる読み聞かせを行う。

#### ④読書週間での取り組み

読書郵便や読書クイズ、先生方一押しの本の紹介、読書感想文の紹介などを図書委員を中心に行う。

### (4) 学習を支援する学習センターづくり

#### ①図書資料の充実、整備

国語科、社会科、理科、生活科のブックリストを作成し、学習に使える図書の存在を職員に知らせるとともに、足りない分野の図書を計画的に購入している。

#### ②情報提供サービスの工夫

データベース化による管理

#### ③市立図書館の団体貸し出しの利用

#### ④司書補によるレファレンスサービス

## 3. 児童の変容と成果

・本に親しみ、本のおもしろさを感じ始めため児童が増えた。高学年では、家庭でもゲームから離れて読書をする姿が見られるようになったという児童の報告もある。

・必読図書や読書郵便を通して、「この本おもしろいよ。」と紹介し合ったり、休み時間に、同じ本について感想を言い合ったりする姿が見られるようになった。

# 郡山市立行健小学校

郡山市富久山町久保田字空谷地23番地の1

## 1 学校概要

本校は、明治6年に創立され、134年の歴史をもつ伝統校であり、郡山駅の近くに位置している。

すぐそばには公立図書館があり、調べ学習・見学学習・お話会などをして連携をとっている。

学級数33、児童数901名の大規模校である。

## 2 実践の概要

### (1) 図書館教育の目標

- ・児童の読書、学習活動に役立つ図書館運営をする。
- ・広報活動を活発に行うと同時に、創造的な行事を実施して、読書への興味と関心が広まるようにする。
- ・図書館に学習センターとしての役割を持たせ、必要な情報を収集できるようにする。

### (2) 学校図書館の概要

平成17年からパソコン室と一緒に、メディアセンターとして位置づけられた。それにより、調べ学習がしやすい環境となった。

また同年、データベース化によりコンピュータによる貸出し・返却作業が始まった。

### (3) 読書活動の推進

#### ① 全校の活動

##### ・読書タイムの設定

毎週火、水、木曜日の朝8時10分から20分までの10分間読書。

##### ・各クラス、学級文庫の常設

月に一度入れ替えをしている。常に本を手に取れる環境

#### ・読書記録

一冊最後まで読み終えたら、記録カードに本の題名や読み終えた日、ページ数を記録しておく。とくに読書に親しんだ各クラス5名は、学年末に表彰する。

#### ・セレクト30

各学年に、読んでほしい本30冊を選定、また本を提示する（課題図書や国語の教科書に関する本、先生のおすすめの本など）。読み終えて、一言感想を書く。学年末に「セレクト30認定証」を授与する。

#### ・多読賞

本を借りた冊数の多かった各学年10名に多読賞が授与される。全校で一番多く本を借りた児童は、代表として校長先生から表彰される。

#### ② 委員会活動

##### (二つの委員会、ブック・お話)

- ・低学年に週一度、読み聞かせ（お話）
- ・30冊本を借りるごとに、全校生から公募したぬりえを配布（お話・ブック）
- ・返却期限カードの作成（キャラクターが描いてあり、児童に好評）（ブック）

#### ③ 公立図書館との連携

- ・公共図書館の使い方を指導してもらう
- ・司書やボランティアによる読み聞かせや手遊び（月一回めやす）
- ・調べ学習等で本を借りる

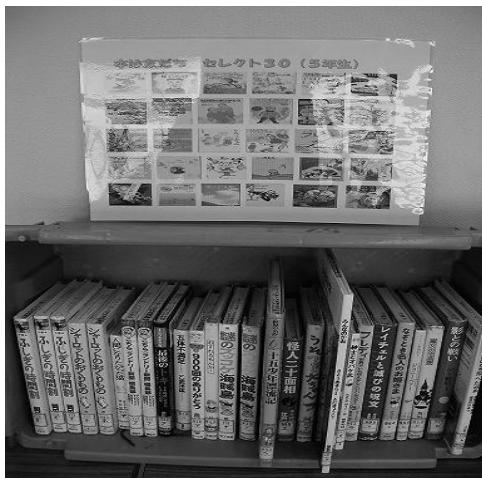
## 3 児童の変容と成果

- データベース化により、貸出しが容易になり、貸出し冊数も少しづつ増えている。
- 読書タイムの定着により、落ち着いて読書が出来るようになった。
- 公共図書館との連携によって、蔵書を充実させたり、お話グループの会員協力を得て、読み聞かせを継続して行ったりしたことにより、本に対する関心がますます高まった。

学校図書館資源共有化を生かした実践例  
～行健小学校～



公共図書館のボランティアによる読み聞かせと手遊び



先生方が選んだ、子どもたちに読ませたい  
本30冊（課題図書を含む）



セレクト30を読み終えると名前  
が掲示される。



コンピュータによる貸し出しの様子



委員会活動で作っている返却カード

## 1 学校概要

本校は明治 8 年に創立され、132 年の歴史を持つ伝統校である。近年、地域の宅地開発が進んで児童数が急増し、現在は 14 学級、児童数 380 余名となった。

学区は市街地の周辺部にあり、田畠が広がる自然豊かな環境が残る一方、アパートや小売店舗などが年々増えている。保護者は学校教育に対して協力的であり、地域ぐるみで子どもを育てようとする意識が強い。

地域に市立図書館の分館があり、自校にない本や複数の本が必要になった場合に、団体貸し出しを利用している。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館の概要

平成 16 年度から学校司書が採用となり、貸し出しや本の受け入れ業務とともに、読書推進活動の中心として活動している。

平成 17 年度 2 学期に蔵書のデータベース化の基盤を整え、コンピュータで蔵書管理や図書の貸し出しを行うようになった。

### (2) 組織・運営

#### ① 指導／各種教育／図書館

- ・図書館教育計画の立案
- ・毎月の図書館教育を職員会で提案
- ・市担当者との連絡・調整
- ・市立図書館との連携

#### ② 児童会図書委員会

- ・コンピュータ操作による貸出・返却
- ・読書週間でのイベント計画・実施

### (3) 本校の主な取り組み

- ① コンピュータ管理による貸し出し管理
  - ・予約
  - ・延滞者への通知
- ② 調べ学習での資料検索
- ③ 市立図書館からの団体貸し出し
- ④ 読書推進活動での活用
  - ・推薦図書リストの作成と配付

- ・読書週間（年 2 回）の設定

- ・日本絵本賞への参加

- ⑤ 利用状況の把握

## 3 児童の変容と成果

### (1) 児童の変容

#### ① 利用の仕方の変化

- ・予約することが可能になり、読みたい本を予約して読むようになった。
- ・調べ学習で必要な本を検索して探し出し、授業で利用するようになった。

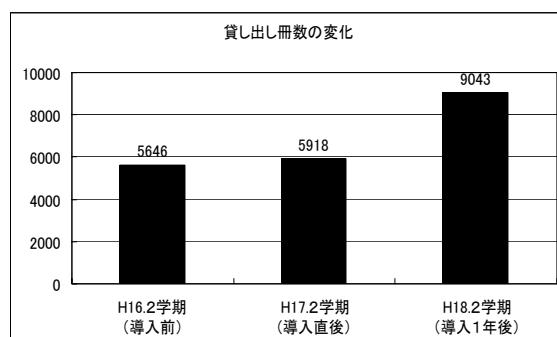
#### ② 来館者の増加

- ・貸し出しカードに記入する必要がなくなり、文字を書くのに時間がかかる低学年児童も気軽に借りることができるようになった。
- ・予約した本が借りられるという連絡や延滞の催促など、学校図書館から児童個人へ働きかける機会が増えた。

### (2) 成果

#### ① 貸し出し冊数の増加

コンピュータによる貸し出しを平成 17 年度 2 学期から開始した。同じ 2 学期で比較すると、導入前と比較して、利用数は 1.5 倍以上に増えた。



#### ② 関心の高まり

新着図書の受け入れ作業時間が短縮されたことで、読書推進活動を充実させることができ、読書への興味関心を高めることができた。

## 学校図書館資源共有化を生かした実践例

### 市立図書館との連携



#### お話し会・ブックトーク

講師が紹介した本や関連する本を市立図書館から団体貸し出しを受け、教室に展示したところ、児童に大変好評だった。



#### 絵本賞への取り組み

日本絵本賞の候補作品を市立図書館から借り、図書室前に展示した。絵本を読んで好きな作品を投票する取り組みに、多くの児童が参加した。



### その他の読書推進活動

#### 推薦図書リスト

各学年 25 冊の推薦図書を選定し、リストをbingo形式にして児童に配付したところ、多くの児童が意欲的に読書に取り組んだ。



#### 全校朝の読書タイム

毎週金曜日の朝、20 分間の読書に取り組んでいる。学年の発達段階に配慮して学級文庫の図書を選定し、配架した。



#### 読書週間のイベント

読書カードの掲示やしおりコンテスト、読書郵便などを行った。また、図書委員の児童が読み聞かせや読書カルタなどを行った。



#### 学校図書館の環境整備

入口に新着図書や季節の本を紹介する展示コーナーを設けたり、教職員や図書委員が勧める本を展示する棚を作成したりして、児童が本と出会う機会を多くした。



# 郡山市立行徳小学校

郡山市富久山町久保田字三御堂143-1

## 1 学校概要

昭和45年、行健小学校から分離した、創立37年の小学校である。近くに奥羽大学、郡山北工業高校、行健中学校、幼稚園などの文教施設が整い、都市の中にあっても緑豊かな自然環境にめぐまれた小学校である。

易經の「**行いを果たして徳を育（やしなう）**」という教えを校名の由来とし、心の教育に重点をおき、地域の人々や施設との連携・協力を大切にして、開かれた学校づくりに努めている。

### ○本校の図書館教育目標

- ・読書センターとして、豊かな心を育む。
- ・学習・情報センターとして、情報活用能力を育む。

## 2 実践概要

### (1) 読書量を増やすために

#### ①朝読の開始

- ・平成16年から全校生で、毎週水曜日に取り組み開始。前日までに読む本を準備させた。1学年は学級文庫を利用。

#### ②蔵書のデータベース化

- ・平成16年度完了、平成17年4月からパソコンを使用しての貸出開始。平成18年9月バージョンアップしパソコンが2台になる。

#### ③「まつばっくりん」の発足

- ・平成16年6月から保護者の方々のボランティアによる朝の読み聞かせを開始。毎週水曜日8時10分から10分間。
- ・読書週間（年2回）には全校生対象の読み聞かせ会を開催。

#### ④図書館を利用する日の設定

- ・平成18年度当初、1週間に1回以上、クラス全員で図書館を利用する時間を設定する。

#### ⑤個人の利用カードを新たに作成

- ・バーコードのついた個人カードを作成。平成18年度ラミネート加工を施し、6年生まで同じカードを使用。学年ごとに台紙の色を変える。

#### ⑥2冊借りられる日の設定

- ・毎週金曜日は2冊貸出可
- ⑦「2冊貸し出し券」の発行
  - ・読書週間（春・秋）、ラッキーday（短縮下校日）は図書館利用者に配布。
  - ・100冊読んだ児童にプレゼント。

#### ⑧「読書の反省」カードの作成

- ・学年の目標冊数、各自の学期ごとの目標冊数、読んだ冊数、反省を書く欄のある「読書の反省」個人カードを作成。4月に目標設定、学期ごとに反省を記入。自分の読書生活を振り返る時間を設定した。

#### ⑨必読図書の設定

- ・平成17年度3学期、係で学年ごとに12冊の必読図書のリストを作成。
- ・図書館に学年別に選んだ本を並べ、学年の先生方からの意見を集約。
- ・学年の先生方が推薦した本を加え、各学年15冊の図書を決定。
- ・「読書の反省」個人カードの裏面に必読図書を印刷し、児童に配布。読んだ本に担任がシールを貼る。
- ・完読した児童には、「ミネルバ賞」を授与。完読証のネーミングを児童から募集。ミネルバには、ローマ神話で知恵の女神という意味が込められている。

#### ⑩魅力的な図書館（環境整備）

- 関連図書や学習資料がそろっている図書館するために
- ・年間3回の図書購入希望調査。
- ・職員全員に呼びかけて資料の収集。

※教科主任に集まる資料や個人的に手に入れた資料を図書館で収集・整理

#### ○読みたい本を探しやすくする工夫

- ・分類や作者がすぐ分かるような工夫。

#### ○図書館の掲示・展示を工夫し、居心地の良い空間の設定

- ・お知らせや大型絵本をイーゼルで展示するなど、興味を引くような工夫。

### (2) 図書館活用能力を身につけるために

#### ①教育課程に教科ごとに「図書館活用」

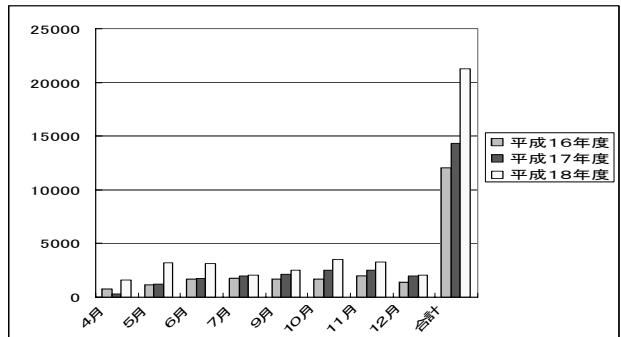
を位置づける

- ②「学び方指導計画表」の作成
- ③「学び方指導」の実践の蓄積
  - ・図書のさがし方の授業（3年）
  - ・「新聞の作り方」の授業（5年）
  - ・スクラップ作り（5年）
  - ・読書会の授業（2年・5年）
  - ・アニメーションの実践（1年・5年）
- ④関連図書の提供
  - ・図書購入希望を年3回取り、実際の授業に役立つ関連図書を毎年充実させる。
  - ・公立図書館と連携し必要な図書を準備。
  - ・読書会、調べ学習では、1クラスの人数分以上の図書を準備。
  - ・「総合的な学習」に関する図書の陳列（その学年の廊下）、休み時間や放課後、自由に利用させた。
    - 3年「昔の生活や遊び」
    - 4年「松っ子タウン（英語）を作ろう」
    - 5年「職人から学ぶ」
    - 6年「共に生きる  
～心のユニバーサルデザイン～」

### 3 児童の変容と成果

- 平成16年度、蔵書のデータベース化が完了。平成17年度から、貸出作業が便利になり、貸出冊数が増加した。18年9月バージョンアップ、パソコンが2台になり、貸出、返却がよりスムーズになった。毎月個人ごとの「貸出集計表」が担任に配られるので、不読傾向の児童に、その子に合った図書を勧めることができた。また、「個人別分類集計表」もすぐ手に入るので、読書の幅を広げさせることもできた。
- 3年間続けた朝の読書が定着し、水曜日の朝は好きな本を楽しむことができた。朝読が始まると図書館利用が増加した。
- 平成18年度、必読図書の選定や読書カード、2冊貸し出し券などの新たな試みが、児童を図書館に向かわせる手立てとして有効に働き、貸し出し冊数を大きく伸ばすことができた。
- 保護者の読み聞かせボランティアの協力を得て、3年間、朝の読み聞かせが実

施できた。平成16年度は低学年が対象であったが、平成18年度は中学年まで、対象を広げることができた。低学年の児童は楽しいお話をたくさん聞くことで、本が大好きになり、図書館に毎日喜んで本を借りに通った。ボランティアの活動が本校の読書活動の推進に大きく寄与している。



【3年間の貸し出し冊数の変化】

- 教育課程への「図書館活用」の位置づけ、関連図書の計画的購入、インフォメーションファイルの設置などにより、各教科や総合的な時間などで学校図書館の活用が図られ、学習・情報センターとしての機能を果たすことができるようになってきた。
- 図書館が居心地の良い空間になるよう、掲示物や本の紹介を工夫したところ、図書館を自分の居場所として活用している児童が増えた。

#### 必読図書リスト・図書展示



個人カード

- 各教科の単元ごとの関連図書リストがまだ十分ではないので、調べ学習は時間がかかるという問題にぶつかってしまう。児童の調べ学習のテーマに関連した図書を効果的に提供できるようにリストの作成に着手していきたい。
- 子どもの読書活動をさらに充実するために、家庭に呼びかけて家で読書する習慣を広めていきたい。

# 郡山市立安積第一小学校

郡山市安積町荒井字神明 6 の 1

## 1 学校概要

本校は、明治 7 年の学校創立以来 133 周年を迎える伝統ある学校である。近くには、国道 4 号線や内環状線などの幹線道路があり、商業地と住宅地が混在する地域もある。

現在、学級数 29, 児童数 766 名の大規模校である。歴史のある学校で地域や保護者の学校に対する関心は高く、地域との連携も深く協力をいただいているが、価値観の多様化も見られるようになってきている。

学区内には、市立安積図書館がある。図書の借り受けだけでなく、地域ボランティアが学校での読み聞かせを行っている。また、お話し会を継続しており、たくさんの児童が利用している。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館全体目標

- ① 学校図書館の利用方法を理解させ、積極的、計画的な活用を促進し、資料の見つけ方を学んだり意欲的に調べたりする学習活動ができるよう援助する。
- ② 読書活動を通して、一人ひとりに読書の楽しさを味わわせる。
- ③ 図書資料の整備・充実を図り、一人ひとりの読書量の増大と読書領域の拡大を図る。

### (2) 資源共有ネットワークを生かす取り組み

- ① ネットワークに係わるガイダンス
- ② 学習センターとしての機能の充実
- ③ 図書委員会の活動の活性化
- ④ 読書に親しむ機会や場の設定

### (3) データベース化の経過

- ① 平成 13 年度  
校舎改築に伴い、図書室の移動作業。
- ② 平成 14 年度  
朝の読書タイムはじまる。

### ③ 平成 15 年度

プレハブ図書館にてデータベース化のための入力開始。蔵書入力終了。新図書室にて館内の環境整備を同時に行なった。

### ④ 平成 16 年度

バーコードの付いた個人カードの作成。データベース化による PC の貸し出し開始。処理能力が低く、速度も遅いため、貸し出しが思うようにできなかつた。PC の不具合が続いた。

### ⑤ 平成 17 年度

パソコンのグレードの違いやソフトのバージョンアップや不具合が生じ、閉館しなければならないこともたびたびあったが、PC が 2 台となり、ソフトの処理能力が高くなり、貸し出し冊数が大幅に伸びた。

### ⑥ 平成 18 年度

操作方法にも慣れ、順調に貸し出しできるようになってきた。  
インターネット「情報 BOX ライブライサーチ」で他校の蔵書も検索でき選書等に役立てることができるようになった。

短い単語で簡単に検索できることで、授業での活用も増えてきている。

### (4) 学習センターとしての機能の充実

- ① 図書館の利用の仕方について学習し、自分が読みたい本を探すことができるよう指導
- ② 司書補によるレファレンスサービスを実施
- ③ 公共図書館からの図書の借り受け
- ④ パスファインダーの制作・活用
- ⑤ 紙芝居による図書館利用のガイダンス

### (5) 図書委員会の活動の活性化

① PCによる貸し出し返却作業

② 読み聞かせ・紙芝居

③ 読書郵便

④ 読書クイズ

⑤ しおり作り

⑥ 本の形のカード作り



⑦ 当たり券の特別貸し出し



⑧ 先生へのインタビュー

(6) 読書に親しむ機会や場の設定

① 朝の読書タイムの実施

平成14年度から、金曜日の8時20分から35分までを全校一斉の読書タイムと位置付けている。各クラス順番に保護者ボランティアの方に読み聞かせに入っていたらしくとも継続され、読書活動への関心も高まってボランティアの方の人数も増えてきている。



② 読書感想文の放送

③ お薦めの本の紹介（気になる木）

④ 図書ニュースの放送

⑤ 読了証による多読者の表彰

⑥ 昇降口にミニ図書館の設置

⑦ 月別ランキング

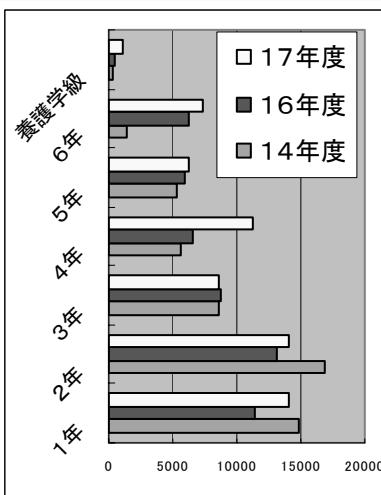
学年別ベストリーダーと人気本ランキングを掲載。



### 3児童の変容と成果

(1) 貸出冊数の増加

| 学年別利用冊数 | 14年度   | 16年度   | 17年度   |
|---------|--------|--------|--------|
| 1年      | 14885  | 11401  | 14111  |
| 2年      | 16897  | 13099  | 14010  |
| 3年      | 8558   | 8810   | 8561   |
| 4年      | 5679   | 6557   | 11290  |
| 5年      | 5379   | 5922   | 6217   |
| 6年      | 1395   | 6294   | 7353   |
| 養護学級    | 246    | 454    | 1085   |
| 貸し出し合計  | 53039  | 52537  | 62627  |
| 児童数おおよそ | 742    | 764    | 772    |
| 平均      | 71.4 冊 | 68.7 冊 | 81.1 冊 |



貸し出し冊数の推移を見てみると、低学年では、貸し出し時期の変更により冊数が減少したもののがPCによる貸し出しが順調

になってきた平成17年度で大幅な冊数増となっているのがわかる。情報BOXの活用により貸出・返却作業の迅速化が図られた。

(2) 図書館の利用者数の増加

データベース化により、図書検索の簡便化が図られ、利用者（児童・教師）の利便感が高まってきた。学習への図書館活用が多くなってきたことで、さらに学習に役立つ資料図書を購入し、学習センター機能を充実させていきたい。

(3) 資源共有ネットワークの活用

地域の図書館からの図書の借受が増加している。総合学習に対応した図書資料の共有化をさらに図っていきたい。

# 郡山市立安積第三小学校

郡山市安積町成田字北山崎18番地の3

## 1 学校概要

本校は昭和55年に開校。創立27周年を迎える。(安積第一小学校から分離) 学級数16児童数433人の中規模校である。

学校図書館には司書補が常駐しており、授業での利用、貸し出し状況ともに良好である。施設面での改良とともに外部ボランティアとの連携による図書館運営の改善に努めてきた。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館教育の全体目標

- 読書環境を整え、読書を愛好する心を育て、心豊かな人間性の育成に努める。
- 図書館の機能を生かし、調べ学習を通して考える力を身に付けさせる。

### (2) 資源共有を生かす組織と活動

#### ① 図書館教育部

- ・図書主任(司書教諭)・部員  
(図書館運営計画、活用推進、涉外)
- ・図書館司書補  
(レファレンス、図書館管理等の業務)
- ・情報教育主任  
(データの新旧処理)

#### ② 図書委員会(児童会)の活性化

- ・貸し出し・返却作業の輪番制  
(データ化による作業の効率化)
- ・読書活動の推進  
(紙芝居の実施、読書郵便、カルタ大会  
延滞者への連絡、しおり作成、読書クイズ)



読書週間に  
行われた、  
児童会図書  
委員会の  
「読書郵  
便」の様子。

### (3) 資源共有を生かす図書館環境と運営

- ① 地域図書館とのつながり
  - ・総合的な学習の時間の資料  
(教師が地域図書館からまとめて借りてくる)
  - ・地域公民館図書室との連携  
(低学年児童の下校指導時に地域公民館を訪問し、利用について促す)
- ② 外部団体との連携推進
  - ・読み聞かせボランティアとの連携  
(お話会の実施：各学級ごとに年2回)
- ③ 開館時間の工夫
  - ・各ブロック毎に主な利用時間をずらす。  
貸し出し・返却の円滑化  
(始業前の貸し出し利用が好評である)
  - ・図書委員会のイベント実施時間の確保  
(大休憩の時間をあてる)
- ④ 図書館の環境整備
  - ・心のオアシススペース  
(畳スペース設置・季節のオブジェ等)
  - ・読書推進  
(廊下掲示板の魅力的な活用、季節にかかる図書紹介コーナー等)
  - ・教科教育の充実  
(教科で必要になる資料について特集コーナーを作り、調べ学習の効率化を図り、関心を高める)

### (4) 資源共有を充実させる図書館経営

- ① 読書・学習センターとして
  - ・授業とのリンク  
(例：1年国語「動物の赤ちゃん」  
→動物絵本コーナー)
  - 2年国語「がまくんとかえるくん」  
→アーノルドコーナー
  - 4年総合「郡山市の環境」

→ e c o コーナー)

・クラブ活動とのリンク

(読書クラブによる「蔵書案内」作成)

②読書タイムの推進

・給食後の15分間を読書タイムとして、全校をあげて、取り組んできている。

③児童・教職員のニーズにあった図書購入

・図書購入時に児童・教職員事前アンケート実施

④教科との関連を図った年間指導計画

・各学年の指導計画から学校図書館活用単元を洗い出し、担任と相談の上、資料を充実させることで、授業の導入や展開を充実させる。

⑤利用指導の徹底

・低学年においては、年度初めに学校図書館の利用の仕方や本の管理について、司書補によるオリエンテーションを1単位時間とる。

・児童会活動として、図書委員会児童において、朝・業間・放課後に積極的に活動を担うことで、児童の主体性利用を推進している。

⑥学校図書館と家庭との連携推進

・「図書館だより」の月発行

(司書補による、継続的発行。裏面には、お話を掲載→家庭での対話や読み聞かせを促す)

### 3 児童・生徒の変容と成果

(1) 図書利用の関心が高まった。

○ 授業と学校図書館との連携を深め、授業に関係する資料をそろえたので、学習への動機付けをしていくことができた。自ら学ぶ手段として、図書を利用することできるようになった。

○ 環境整備<畳スペースの設置>により、ゆったりとした雰囲気のもと、本に親しむことができるようになった。

(2) 図書の貸出し冊数が増加した。

<平成17年度、18年度の貸し出し冊数>

| 分類   | 17年度  | 18年度  |
|------|-------|-------|
| E 絵本 | 434   | 1226  |
| 0 図鑑 | 37    | 70    |
| 1 哲学 | 103   | 347   |
| 2 歴史 | 1559  | 2653  |
| 3 社会 | 626   | 703   |
| 4 自然 | 1554  | 3324  |
| 5 技術 | 501   | 942   |
| 6 産業 | 133   | 328   |
| 7 芸術 | 3128  | 6225  |
| 8 言語 | 51    | 146   |
| 9 文学 | 8591  | 18008 |
| その他  | 630   | 1136  |
| 合計   | 17353 | 35108 |

\* 2倍以上の増加である。

- データベース化・貸出し時間の工夫により、貸出しや返却の手続時間短縮。
- 延滞者についてもすぐにデータとして把握し、利用指導に生かせた。
- 図書館利用の関心の高まり。

(3) 学校図書館を活用した授業実践の増加

- 年間指導計画の活用と司書補のレンズ、準備。
- 司書補の働きかけによる教師の利用意欲の喚起。



<今後の課題>

- 読書の質の向上
- 資源共有の利点を生かし、他施設の資料の活用を図っていきたい。

## 1 学校概要

本校は、学級数13、児童数312人の中規模校である。周辺を阿武隈川と笛原川が流れ、水資源に恵まれた環境にあり、夏は川の調べ学習、冬は白鳥の飛来等で、児童の学習や生活に影響を与えていている。

また、地域のボランティア団体「おはなしたまご」の方による読み聞かせ活動が数年続いており、児童のお話への興味関心を高めている。

## 2 実践概要

### (1)学校図書館教育の全体目標

- 望ましい読書習慣を身につけさせ、知識や情操を豊かにし、健全で円満な児童の育成を図る。
- 学校運営上必要な図書資料を収集、整理、保存し、児童・職員の利用に供することにより、教育課程の展開に寄与する。

### (2)資源共有を生かす組織づくり

#### ①図書館教育部

図書館担当教諭、司書補を中心に、計画の立案、運営を行っている。

#### ②児童図書委員会

- ・コンピュータ操作の学習をして、貸し出し、返却を行う。
- ・朝の読書の時間を、放送により呼びかける。
- ・読書週間のポスターを作る。(6月：あじさい読書週間、10月：どんぐり読書週間)
- ・読み聞かせ活動をする。(年2回)

### (3)学校図書館利用計画の策定

#### ①年間指導計画とのリンク

年間指導計画をもとに、読書や調べ学習などに計画的に利用する。

#### ②図書館利用指導

1年生を対象に、2学期に1単位時間のオリエンテーションを行い、学校図書館の利用の仕方や図書の扱い方について指導し、1年生の貸し出しを開始する。

#### (4)読書活動の推進

##### ①学級への貸し出し

各学年の調べ学習や読書活動への貸し出しを行う。

例：戦争に関する図書

1年生の学級文庫

##### ②読書の時間

全校一斉に、朝の読書の時間を設ける。

- ・週2回（月曜と金曜の朝）

##### ③図書館だよりの発行

月1回の割合で定期的に図書館だよりを発行する。

- ・新刊図書案内
- ・図書の貸し出し状況

## 3 児童の変容と成果

○児童の図書館利用、及び図書利用が増えた。朝や業間の開館時間には行列ができ、図書館が児童で賑わっている。

- ・データベース化により、図書の返却・貸し出し、予約が簡単になり、図書利用が増えた。
- ・図書館だよりの発行により、新刊図書や図書館運営の情報を、児童や保護者に伝え、読書への意識を高めることができた。
- ・朝の全校一斉読書の時間を週1回から週2回に増やすことにより、読書の定着が進み、図書利用が増えた。
- ・児童図書委員が貸し出しや読書の時間を持ちかけることにより、児童自らが運営する意識が育ち、児童の間に良い影響をもたらした。

## ～学校図書館活用の様子～



日常の貸し出し・返却

バーコードの読み取りにより、  
貸し出しがスムーズにできるよう  
になりました。



学級文庫



図書委員会児童による1年生への読み聞かせ  
一生懸命読みました。

朝の読書の時間  
本を読むのが大好きです。

## ～図書館環境の整備～



本の予約コーナー  
予約するって楽しみです。



本の借り方・返し方  
とってもかんたんです。



季節の行事に合わせたお勧めの本  
2月は“せつぶん”です。



新刊図書の紹介  
どんな本が入ったかな。

# 郡山市立河内小学校

郡山市逢瀬町河内字町東13-1

## 1 学校概要

本校は、明治23年に開校した伝統ある学校である。郡山市の西部に位置し、豊かな自然環境に恵まれている。1・2年、5・6年が複式学級で、学級数4、児童数37名の少人数の学校である。

学校の図書室で貸し出される本は、物語など読み物の本が多い。学校のすぐそばにある行政センターにも図書館があり、本好きな児童が利用している。

## 2 実践概要

### (1) 本校の図書館教育の重点目標

- いろいろな本に親しみ、進んで読書をする態度を育てる。
- 学習のめあてに応じて、適切な資料を選んで活用できる能力を育てる。

### (2) 資源共有を生かす組織作り

#### ①図書館部

担当者が、各担任から意見を聞き、環境整備や新しい本の購入など、計画の立案、運営を行っている。

#### ②児童図書委員会

- ・日常の貸し出し、返却
- ・新刊図書などの紹介
- ・多読児童の調査と表彰

### (3) 目標を実現するための諸活動

#### 【読書好きな児童を育てるために】

##### ①読書タイムの実施

毎週金曜日、8:10~8:20の10分間、全校生で取り組んでいる。

##### ②図書委員会の取り組み

- ・新刊図書などの紹介をする掲示物を作成し、掲示する。
- ・多読児童を全校朝の会で表彰する。

##### ③読み聞かせの実施

主に、低学年の学級で、大型本や紙芝居などの読み聞かせを行う。

## ④教科と連携した読書指導

- ・国語で学習した作者や時代の関連図書を紹介し、読む時間を設ける。
- ・学級活動で、「図書館の利用のしかた」「本を読もう」など、読書指導の時間を学年ごとに設け、指導する。

## 【資料（情報）活用能力を育てるために】

### ①NIE の取り組み

5・6年で、NIE の実践を試み、新聞からの情報収集、新聞記事を活用した授業、新聞作成、新聞コンクールへの参加、自分が選んだ記事をわかりやすくまとめて他学年に紹介するなどの活動を行っている。

### ②調べ学習がしやすい環境作り

図書室の中にパソコンがあり、図書とインターネットでの調べ学習の両方ができる環境にある。社会や国語、総合的な学習の時間など、調べ学習に必要な図書の購入、配架を行う。

## 3 児童・生徒の変容と成果

- ・ 読書タイムの実施、読み聞かせ、多読児童の表彰、児童が興味を持つような図書の購入・紹介などの取り組みにより、進んで本を借りる児童が増えた。
- ・ データベース化により、所蔵本の管理や図書の貸し出し・返却などの手続きが容易になった。また、ベストリーダー、人気図書ランキングなどがすぐに分かり、図書委員会の活動に大いに活用できた。
- ・ NIE の実践や調べ学習の本の充実により、新聞、図書など様々な情報源の中から、適切な資料を選んで活用できるようになってきた。調べ学習で得た情報を分かりやすく新聞などにまとめて他学年や地域の人などに紹介する機会を設け、表現力の向上にもつながった。

## 読書好きな児童を育てるために

## ①読書タイムの実施



みんな本が大好き。真剣に読んでいる。



<図書委員会の児童が作った新刊図書の紹介>

## 資料（情報）活用能力を育てるために

## ○ NIEの実践から



必要な記事をスクラップ  
し情報を集めた。  
(情報収集の一例)



<自分が選んだ新聞  
記事の紹介>  
自分が選んだ記事  
をわかりやすくまと  
め、他学年の児童に、  
紹介しているところ。

## &lt;新聞コンクールに出品した作品&gt;



記事を活用することから自分達  
で記事を書く活動に発展。表現力  
の向上につながった。

## 1 学校概要

本校は、明治7年堀之内村龍角寺に堀之内小学校として開設し、その後、昭和40年郡山市立喜久田小学校と改称し、今年で132周年を迎えた伝統校である。

郡山市郊外に位置し、安積開拓による農地がひろがり自然豊かな農村地帯である。周辺には卸団地、トラックセンターという郡山市の商業活動の拠点がある多様な地域でもある。

平成16年度途中より資源共有ネットワーク事業に取り組みデータベース化作業を始めた。平成17年度4月よりデータベースを活用して図書貸出を開始した。

## 2 実践の概要

### (1) 学校図書館全体目標

- ・児童の学習活動を豊かにする図書資料を提供する。
- ・よりよい読書習慣を身につけさせ、情操豊かで探求心のある人格形成を図る。
- ・資料活用能力やメディアリテラシーなどの学び方を育てる。

### (2) 資源共有ネットワークを生かす取り組み

- ネットワークに係わるガイダンス
- ①学習を支援する情報センターづくり
    - ・公共図書館からの団体貸出の活用
    - ・他校との借用、貸与  
(学校間の図書資料の共有化)
    - ・司書教諭・司書補・学級担任との連携
      - ・パスファインダーの作成
      - ・インターネットの活用
      - ・パンフレットや新聞のファイリング
  - ②図書委員会の活動
    - ・日常の貸出・返却作業

(学校図書館活性化ソフト情報B O X の活用)

- ・低学年への読み聞かせの実施
- ・読書月間(11月)の取り組み
- ③みんなが集まる図書館づくり
  - ・季節にあった掲示の工夫
  - ・新刊案内(コーナーの設置)
  - ・おすすめ本コーナーの設置
- ④本好きの子どもを作る活動
  - ・毎週木・金曜日の読書タイムの設定
  - ・ボランティアによるお話会の実施
  - ・図書館便りの発行

### (3) 目標達成の方策

- ・情報センターとして機能の充実のため全職員に呼びかけ資料を収集する。
- ・分類表記・パスファインダーを活用しやすく設置し学習活動に役立てる
- ・基本図書の充実に努める。
- ・環境整備に努め、活用度の高い図書館とする。

## 3 児童の変容と成果

資源共有ネットワークの整備により以下の変容が見られた。

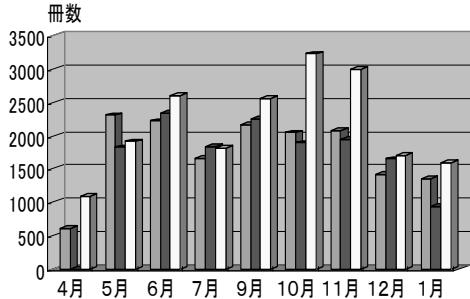
- ①貸出冊数の増加
  - ②図書館利用者の増加
  - ③教諭による資料図書利用の増加
- その理由として、

第一に、データベース化により、図書検索の簡便化が図られ、利用者(児童・教諭)の利便感が高まったことがある。

第二に、データベース化により、分類図書の割合が把握でき、新書購入の際、簡単に必要度の高い分野を洗い出すことができるようになった。

第三に、図書貸出の仕組みを目の前で見ることができ、興味、関心が高まった。

## 【3年間の貸出し冊数の変化】



## 貸出・返却の様子



平成17年5月より情報アプリ（学校図書館活性化ソフト）での貸出・返却作業開始。平成18年9月よりバージョンアップされ、パソコン2台での貸出・返却作業がスムーズになる。月別貸出集計・ベストリーダー・人気図書ランキングなどたくさんの資料が簡単に出力され役立っている。

## 【学習活動の推進】

4年生 国語『言葉遊びの世界へようこそ』より

学校図書館や公共図書館の資料も使ってます。



どの本に  
しようか  
な?



インターネ  
ットも使  
って調べま  
す。



おもしろい回文が  
ありました。

## 【本好きの子供を作る活動】



お話ボランティアによる読み聞かせ。

## 【おすすめ本コーナー】6月実施



カエルに関する本を読もう！！

## 1 学校概要

本校は、創立131年を迎えた歴史と伝統のある学校である。市郊外の、源氏・平家ボタルが舞う環境豊かな農山村にある。保護者の大半が本校卒業生で、地域・保護者から多くの支援、協力を得ることができている。

現在、全校生53名、教職員数11名の小規模校ではあるが、表現力の育成に取り組み、学校は活気に満ちている。表現力の基礎を培うため、読書活動の推進に取り組んでいるところである。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館教育の全体目標

- 1 児童の読書量を伸ばし、よい読書習慣を身に付けさせる。
- 2 読書を通して、知識と情操豊かな子どもを育てる。
- 3 課題解決のために図書館資料を効果的に活用する力を伸ばす。

### (2) 資源共有を生かす組織活動

- ① 図書館教育部を中心に、学級担任5名で、計画、運営を行っている。
- ② 児童図書委員会
  - ・貸し出しに伴うコンピュータ操作の学習
  - ・日常の貸し出し、返却
  - ・図書室整備
  - ・全校集会における本の紹介（6月）
  - ・読書レース（11月）
  - ・読書郵便（2月）
  - ・本の読み聞かせ
  - ・学級図書の整備（公共図書館からの配本を生かして）
- ③ 保護者ボランティア
  - ・パソコンによる図書の受け入れ業務
  - ・本の読み語り（毎週木曜）

### (3) 学校図書館利用計画の策定

- ① 年間指導計画とのリンク  
各学年の指導計画の中で学校図書館

を利用する単元を洗い出した「図書館授業活用表」を作成したり、教育課程にも図書館利用の単元・教材を明記して活用を図ったりしている。また、それに伴い関連図書の計画的な購入を図っている。

### ② 学校図書館の利用指導

各学年において、次のような利用指導を行っている。

- ・本の借り方、返し方（1年）
- ・本の種類と並び方（2年）
- ・図鑑や事典の使い方（3・4年）
- ・NDC・著作権について（5・6年）

### (4) 読書活動の推進

- ① 朝の10分間読書（毎朝）
- ② 外部講師による「お話会」
  - ・読み語り（4月、3月）
  - ・昔話の会（11月）
- ③ 児童図書委員会による活動
- ④ 読書感想文・読書感想画への取り組み
- ⑤ 市図書館の活用

## 3 児童の変容と成果

### ○ 読書量の増加

- ・パソコンによる貸し出し、返却の実施により手続きが簡単になったため、図書を借り、家庭で読書する児童が増えた。以前の3倍以上となっている。
- ・外部講師や保護者ボランティアによる「お話会」「読み語り」の実施、公共図書館利用などにより、様々なジャンルの本やお話にふれ、読書や調べ学習への興味が高まっている。

### ○ 資料活用能力の育成

- ・「図書館授業活用表」の作成により、学習に必要な図書を計画的に購入してきたため、児童が図書を選択し学習に生かせるようになってきた。

### ○ 表現力の育成

- ・読書により表現のよさに気づき、自己の表現に生かすことができるようになった。

## 学校図書館資源共有化を生かした実践例～上伊豆島小～

読書活動推進を中心とした上伊豆島小学校図書館の取り組み

### 児童会図書委員会の活動



### <全校集会での本の紹介>

本の紹介後、新しく入った本  
を手にする児童達



### <本の貸し出し・返却>



パソコンを使っての貸し出しで、  
一人あたりの読書冊数は60冊。



### <読書郵便・読書レース>



### お話しによる読書推進



<昔語りの会>昔語りの実演  
に挑戦する児童



### <毎週の読み聞かせ>



<読み語りの会> 終了後、さっそく本を開きお話をたどる  
低学年の児童たち



### <本の受け入れ・整備>

## 1 学校概要

福島県のほぼ中央に位置する猪苗代湖。雄大にそびえる磐梯山。その美しい自然に抱かれた湖南地区は猪苗代湖の南側を取り巻く地域である。湖南地区は少子高齢化が進み、複式学級が年々増加することが予想された。複式化を回避し、よりよい環境の中で子供たちが伸び伸びと楽しく学べるようにしたいという地元の熱意を受け、平成17年度に5つの小学校を統合し、既存の湖南中学校の隣に新たに湖南小学校の校舎を併設させ、小中一貫教育を全国に先駆けて実践することとなった。学級数小学校6、中学校6、児童数145名、生徒数117名、今年度は小中一貫教育の2年目である。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館の概要

本校の学校図書室は既存の中学校図書室と新設の小学校図書室がある。図書資料はデータベース化によりコンピューターによる貸出・返却作業が可能である。児童生徒はどちらの図書室を利用してもよい。特に小学校図書室は昇降口の近く、校舎の中央部に位置するため、中学生もよく利用している。

### (2) 資源共有を生かす環境

両図書室とも、コンピューター室が隣接しているため、調べ学習がしやすく、授業でも利用しやすい。中学校図書室は主に、調べ学習の学習資料として利用できる書籍、辞書、辞典類を配列し、授業で活用できるようにしている。小学校図書室は、児童が利用する図書のほかに、中学生用の進路・学習関係の図書や中学生向けの小説を配列している。絵本の書架の近くに畳敷きのスペース、窓側に備え付けの机を設置し、用途に応じて利用できるようにしている。また、郡山市中央図書館から定期的に貸出を受け、保護者・地域一般開放図書コーナーを設置している。

### (3) 本校の学校教育図書館教育目標

- ・ 児童・生徒たちに豊かな読書経験の場を提供する。
- ・ 小中9年間の心身の発達段階に応じた推薦図書を提供し、積極的に読書に取り組ませる。
- ・ 児童生徒が自主的に学習に取り組めるような資料を豊富に収集する。

### (4) 読書活動の推進

- ・ 読ませたい本50選の選定
- ・ 朝の読書
- ・ 地域ボランティアによる読み聞かせ「この指とまれ」
- ・ 学級文庫への貸出
- ・ 図書だよりの発行

### (5) 児童・生徒の図書委員会の活動

#### <小学校(4年～6年)>

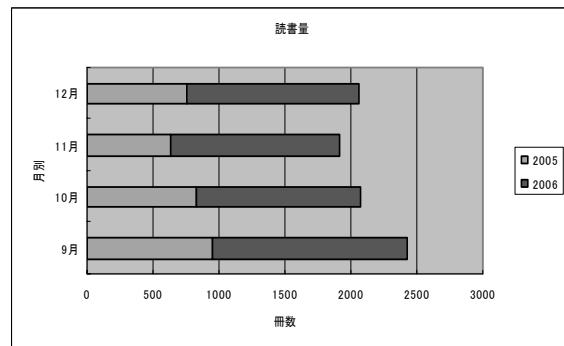
- ・ 図書の貸し出し返却および整理
- ・ 読み聞かせ(朝の読書で1・2年生に向けて)
- ・ ポスターや掲示物の作成

#### <中学校(1年～3年)>

- ・ 図書の貸し出し返却および整理
- ・ ポスターや掲示物の作成
- ・ 学級文庫の管理

## 3 児童・生徒の変容と成果

中学生も小学校図書室を利用できるようにしたところ、読書への関心が高まり、利用者が増加した。



## 小中の学校図書館を共有化した実践例 湖南小学校・湖南中学校

図書館利用の様子



カウンターは子どもたちでいつも  
にぎわっています。



中3が小1へ紙芝居



地域ボランティアの方と一緒に

交流の場として  
の図書館

読書の様子



明るい窓辺は読書や勉強に最適。



朝の読書 週に2回 20分間集中。



W杯の関連した図書



梅雨の掲示

行事や催しに  
合わせた掲示

## 郡山市立御代田小学校

### 1. 学校概要

本校は、阿武隈川に隣接し、校庭には野うさぎが遊びに来るなど自然豊かな場所に立地している。学級数6、児童数134名。児童数は、年々減少傾向にある。地域や保護者からの温かい支援、協力を多く得て教育活動に取り組んでいる。学校では、縦割り班「みよた家族」の機能を生かして、給食・そうじ、マラソン大会・なわとび大会などの活動を行い、「助け合う心、認め合う心」を育成している。総合的な学習の時間では、森林学習、地域学習、食と健康、歴史学習、ボランティアなどに取り組み、地域との関わりを通して活動を行っている。

公共施設は少なく、地域に図書館はない。学校図書館だけでなく郡山市中央図書館と連携しながら、読書活動の推進を図っている。

### 2. 実践概要

#### (1) 学校図書館教育の全体目標

- 学校図書館利用の基本的知識、態度、技能を育成する。
- 健全な読書に親しむ態度を養う。
- 情操豊かな人間の育成に努める。

#### (2) 資源共有を生かす組織活動

##### ①図書館教育部

- ・利用指導
- ・図書のデータベース化の推進
- ・図書購入計画
- ・他校との連絡調整
- ・読書感想文コンクールへの取り組み
- ・お話会の実施と参加指導
- ・図書の管理
- ・読書タイムの運営

##### ②児童図書委員会

- ・学校の図書の貸し出し（パソコン）
- ・図書の整理整頓
- ・各ポスター作成、多読賞の表彰

## 郡山市田村町御代田字中林8番地

### (3) 学校図書館利用計画の策定

#### ①年間指導計画とのリンク

見通しを持って教材となる図書の準備ができるよう、各学年の年間指導計画に利用時期や必要な図書を記載し、中央図書館との連携を図っている。

#### ②オリエンテーションによる利用指導

利用指導の時間を学級活動の年間計画置づけている。2年生から6年生は、年度め、1年生は10月に利用指導を行い貸し出しを開始する。

#### <各学年の指導の重点>

低学年 ・本を自分で見つけることができる。

・決まりを守って、本を大切に扱うことができる。

中学年 ・進んで読書をしようという意欲を持つことができる。

・図書室の決まりが分かり、正しい本の取り扱い方ができる。

高学年 ・目的に応じた読書ができ、それを生活に役立たせることができる。

・計画を立てて読書ができる。

### (4) 読書活動の推進

#### ①学級文庫の設置

#### ②読書タイム 週2回 10分間

#### ③こども読書週間 秋の読書週間

#### ④新刊図書の紹介

#### ⑤お話会での図書の読み聞かせ 月3回

#### ⑥長期休業中の貸し出し

### 3. 児童の変容と成果

- ・ 総合的な学習や社会科では、図書室から調べ学習に必要な資料を自分で選び、学習を意欲的に進める姿が見られる。
- ・ 各学年とも読書量が増えている。
- ・ 必要図書の検索ができ、貸し出しがスマートになった。
- ・ 蔵書だけで足りない本を中央図書館から借り、学習に活用することができた。

学習・情報センターおよび読書センターとしての取り組みの様子

①学校図書館を利用した学習活動の推進

<森林についての調べ学習>



②読書タイムの取り組み

<朝10分間の読書タイム>



③お話会の取り組み

<低学年>



<中学年>



<高学年>



④図書委員会の活動



### 1 学校の概要

本校は明治6年に開校した古い歴史をもつ学校である。学区内には父母・祖父母が卒業生に多くいる農業を中心の地区と、あとからできた住宅地とがあり、新旧の住民が学校教育に協力して当たってきている。平成15年度・16年度に行われた、校舎大規模改築に伴い、学校図書館とコンピューター室とが隣り合わせとなった。可動式の壁でつながれ、通常は壁をはずしてひとつの空間として使用できるようになり、調べ学習などに活用しやすくなった。

現在学級数は13、全校児童321人。図書館ボランティアの協力と全校職員の交流読み聞かせで、全校生が読み聞かせを体験してきている。

### 2 実践の概要

#### (1) 学校図書館目標

学校図書館の充実をはかり、学校図書館の活用を通して、子どもの好奇心を触発し、自ら考える力を育成する。

#### (2) 全校的な取り組み

- ① 調べ学習のための利用指導の年間計画作成
  - ・ 図書館利用指導・情報活用指導計画
  - ・ パソコン・インターネットの利用の指導計画（情報教育部との連携）
- ② 図書室とパソコン室が隣接している利点の活用推進（コンピューター室との同時利用）
- 利用学年・学級の調整・・・

週ごとに利用予定を書き込み調整

#### ③ 司書補と担任の連携（授業支援）

- 本の紹介・検索等
- ④ 市立図書館の団体貸し出しの利用
- ⑤ 配架の工夫 基本は十進分類  
一部分類に関わらず一緒に使われるこの多い本は隣接して配架
- ⑥ パソコン・インターネットの利用指導
- ⑦ 朝の読書タイムの設定

・毎月職員による読み聞かせ実施

#### (3) 児童会読書委員会の活動

- ① コンピューター操作の方法を覚え  
貸し出し業務を担当
- ② 読書祭りの開催（年3回）  
読書クイズ・お勧めの本の紹介  
読み聞かせ・お話会の開催
- ③ 多読賞の表彰



読書祭りの準備をする読書委員

### 3 児童・生徒の変容と成果

- 図書の配架が整い、子どもたちが自分の探したい本のある場所がわかつてきたり。
- 図書室とコンピューター室とがオーブンで隣接しているので両方を使って調べ学習をすることができる。同時に2学級が利用することも可能で活用されている。
- 担任と司書補との連携により授業に必要な資料の提供や子どもたちへの助言を行ってきた。
- データベース化を図ることにより読みたい本や調べ学習の資料などを児童・教師が容易に検索できるようになってきた。
- 貸し出し手続きが簡略化されたことにより以前は2年生から行っていた図書の貸し出しが1年生からできるようになり、下学年の貸し出しが増えた。また、一度に一人2冊貸し出すことにより、読書の幅が広がってきていた。

## 学校図書館資源共有化を生かした実践例～郡山市立高瀬小学校～



読書委員会による貸し出しの様子

○朝・業間・放課後の時間帯に読書委員を中心  
に本の貸し出しが行われている。

### 高瀬っ子読書ランド

- ・ 読むことが楽しいと感じる、本の好きな子に
- ・ 幅広いものの見方、感じ方、考え方のできる子に
- ・ 自ら課題をもって自分の力で解決しようとする子に

### 楽しい読書

コンピューターを使っての貸し出しで、手続きが簡単になり利用が増えてきている。

調べ学習は図書室とコンピューター室を使って自分の課題の解決を目指して



コンピューター室とつながっている図書館

### 進んで調べる

総合的な学習・社会科・国語科・・・調べ学習はここで



朝の読書タイム 担任の交流読み聞かせ



自分の学級以外で  
読み聞かせ  
子供たちも楽しみ  
にしている。

### 1 学校概要

本校は明治33年に郡山第二尋常高等小学校として発足し、今年で107周年を迎える伝統校である。近くには大型スーパーやマンションなどが立ち並ぶ市街地に位置している。

学級数14、児童数334名の中規模校である。父母や祖父母が卒業生である家庭も多く、教育活動には大変協力的である。

保護者による読み聞かせのボランティアグループは、読み聞かせや学校図書館の本の整理などの活動にも積極的に取り組んでいる。

### 2 実践概要

本校では、学校図書館教育をメディア教育部の中に位置づけ、学習・情報センターとして、様々な情報の活用能力の育成とともに読書を愛好する態度と習慣の育成に取り組んでいる。

#### (1) 本校の学校図書館教育目標

- 学習・情報センターとしての学校図書館の整備を図り、主体的かつ意欲的に学ぶ児童を育成する。
- 図書館の積極的な活用を図り、読書をとおして豊かな情操を身につける。

#### (2) 学校図書館の蔵書の共同利用の在り方

図書の購入は、メディア教育部（図書館教育、情報教育）、司書補と協議し行っているが、その際、資源共有ネットワークを活用し、他校の蔵書を参考に購入計画を立てている。

#### (3) 各教科や総合学習で必要な本が学校図書になかったり、冊数が不足したりしている場合、公共図書館の団体貸出を利用し、活用を図っている。

また、ネットワークの中の「おすすめの本」のリストを参考にそれぞれの学年にふさわしい本を公共図書館から借り、学級に配置し、発展的な読書に対応でき

るよう心がけている。

#### (4) 学校図書館司書補との連携

各学年とも、学級活動の中に図書館利用の仕方や本の分類などについて学ぶ時間を設け、学級担任と司書補とのティーム・ティーチングで指導を行っている。

#### (5) 学校図書館利用のための体制と活動

##### ① メディア教育部（図書館担当）

司書教諭、情報教育担当、司書補が計画の立案、運営を行っている。

- ・ 全職員への連絡、協力の依頼
- ・ インターネットを利用した調べ学習に有効な情報の紹介
- ・ 図書室の環境整備
- ・ 公共図書館との連絡

##### ② ブックセンター委員会

- ・ 本の貸出、返却作業
- ・ 読み聞かせ会の実施（年6回）
- ・ 読書週間の取り組み（読書郵便）
- ・ 図書便り、ポスター作成

##### ③ 保護者ボランティア

- ・ 本のラベル貼り
- ・ 週一回の読み聞かせ活動

### 3 児童の変容と成果

- ・ 公共図書館から本を借りることで、たくさんの資料から自分に必要な情報を選ぶことができ、児童の興味、関心に応じた学習が展開できた。
- ・ 配架の工夫や本の分類の仕方などを指導する時間を設けたことで、児童は必要な本を今までより効率よく探すことができるようになった。
- ・ 蔵書のデータベース化により、図書の貸出や返却の手続きが簡単になったこと、読み聞かせや読書郵便の実施、ベストリーダーの紹介などを行ったことにより児童の図書利用への関心が高まり、利用が増えた。

## 学校図書館資源共有化を生かした実践例～郡山市立芳山小学校～

### 図書館環境の整備充実



### 学校図書館を利用した学習活動

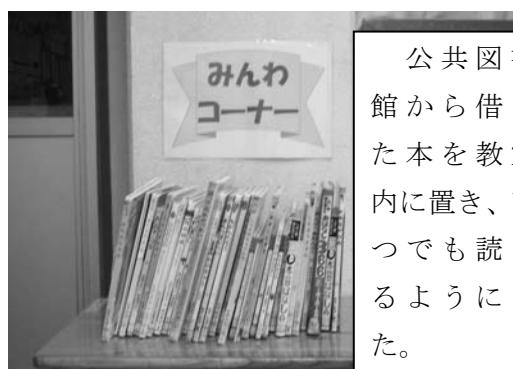


### 本が大好き

### かわいっ子を目指して！

### 読書活動の推進

ブックセンター委員会児童による読み聞かせ会



# 郡山市立橋小学校

郡山市堤下町4番4号

## 1 学校概要

本校は、創立87周年を迎える伝統校である。郡山市の市街地中心部に位置し、文化センターや公共図書館が近くにあり、文化的施設などには恵まれている。

学級数19、児童数461人。児童数は減少の傾向にあるが、地域の学校への関心は高く、今年度は本格的に図書館ボランティアの活動が始まり、図書館整備やお話会などの活動が定期的に行われている。全職員で共通理解を図り、図書室だけではなく学校全体が読書・学習センターとなる環境を整え、児童が読書に親しみ、主体的に本や必要な資料を探し学習に活用できる力をつけさせたいと考え、研究に取り組んできた。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館教育の目標

児童一人一人の学びや読書活動を支援する学校図書館

### (2) 研究の内容と実践

#### ①読書活動の促進のために

○学校図書館の環境整備を行う。

○朝の読書タイムの確立と充実

○図書館ボランティアや保護者との計画的な連携によるお話会の実施

○委員会活動の活性化

#### ②情報活用能力を高めるために

##### <利用指導の重点化>

○教育課程の展開に寄与する学校図書館づくり

- ・図書館教育の「学年重要単元等一覧表」を作成し、学校図書館利用指導表と組み合わせながら各学年、各教科で計画的に図書館の利用指導が行えるようにした。
- ・各学年、各教科で必要な資料の精選とパスファインダーの作成。
- ・総合の時間や国語、社会の調べ学習で、

より効果的な情報活用ができるためのT.Tの工夫。

- ・教科書に出てくる物語教材の原作本や、同じ作家の本、発展読書のための本のリスト作成。

○学習センターの環境整備と資料の充実を図る。

- ・空き教室や空いているスペースを学習・情報コーナーとして多目的に使えるようにした。

- ・情報ファイルの活用…情報コーナーをつくり、資料を活用できるようにした。

○児童の実態や課題に応じたパスファインダーの作成と授業での活用。

- ・パスファインダーを作成し、総合学習や国語、社会の授業で、より効果的な情報活用ができるようにした。

○データベース化による本の検索

- ・必要な図書資料をキーワードでコンピュータから検索し、情報活用できる技能を身につけさせた。

## 3 児童の変容と成果

(1) 読書や学習スペースを各ブロックごとにつくり、図書館ボランティアと共に読書の環境を継続して整備していくことで、児童が読書に親しみ、図書資料を一層活用する姿が見られるようになった。

(2) データベース化による本の貸し出しは非常にスムーズに行われ、貸し出し冊数が増えた。読書量や利用の実態も把握できるので、学級担任にも知らせ、指導に生かすことで読書の推進が図られた。

(3) 児童がコンピュータを使って本や資料の検索をしたり、図書室の仕組みを知り、自ら活用したりできる力が高まってきた。

(4) 図書資料や情報を活用する際に、学級担任と司書捕が連携し、T.Tで支援することは個々の学びを支援するのに有効であった。

## 学校図書館資源共有を生かした実践例

郡山市立橋小学校

### ＜実践の様子＞



図書委員も、バーコードによる本の貸し出しに慣れ、手際よく貸し出しの仕事ができるようになった。パソコンで蔵書の検索もでき、調べ学習に便利である。



国語の読書単元で、発展読書のために、著者名から同じ作家の本を検索する。全員で、コンピュータでの検索の仕方を学んでいる。

#### ○情報ファイルについて

(インフォメーションボックス) ファイルを調べ学習コーナーに置き、資料をためていく。

(例：見学、体験学習時のパンフレット、学校に配布される冊子等)

※学習資料は、教師がこれまで各学年、各教科で使用してきたもので共有の資料として提供してもらえるものから収集し、項目ごとに資料として活用することにした。



3階スペースで調べ学習をする6年生児童



### ＜授業の実践から＞

- ・6年 国語 「二つの意見から」

カタカナ（外来語）と日本語について資料で調べ、資料をもとにディベート的な話し合いをする活動での支援。



図書室で辞書を活用する6年生児童

情報コーナーで、資料をもとに調べ学習をする6年生の児童。ファイルの数は増えているところであるが、これまでの資料の精選もしてきた



- ・5年 総合学習「守ろう 地球の環境を」

テーマ別グループごとに課題を解決する際に、学年担任と司書捕のT・Tで支援。

## 郡山市立小原田小学校

### 1 学校概要

本校は、明治8年に開校し、今年で、創立132周年を迎える伝統ある学校である。郡山駅からも2kmと近く、商店街と住宅地が多い。

現在、学級数21、児童数542名。少子化の影響で児童数は年々減少している。昔からこの地域に住み、三世代同居の家庭も多く、保護者が卒業生ということもあり、概ね学校に対して協力的である。ただ、最近はマンションなども建つようになり、共稼ぎの核家族も増えてきている。

### 2 実践概要

#### (1) 資源共有を生かす組織作り

##### ① 図書館教育部

図書教諭、国語部を中心に、学校図書館司書を加え、計画の立案、運営を行っている。

##### ② 児童の図書委員会の活性化

- ・日常の貸し出し・返却・整理
- ・年3回、読書週間の取り組み
- ・紙芝居・読み聞かせ会の実施
- ・児童からの推薦図書の紹介

#### (2) 本校の今年度の図書館教育目標

「ともに学び・ともに育つ授業を支える学校図書館」  
・学習・情報センター及び読書センターとしての学校図書館を効果的に活用する力を育てる。  
・本に親しみ、豊かな感性を育む。

#### (3) 学校図書館利用計画の策定

##### ① 年間指導計画とのリンク

年間指導計画をもとに、読書や調べ学習で図書室を活用する単元を調べたり、学年ごとに計画を立てたりしている。

##### ②図書室の利用指導

年度初めや総合学習の時間に利用の仕方や本の探し方などの指導をしている。

## 郡山市小原田 4-5-18

### (4) 読書活動の推進

- ①学級文庫への貸出
- ②週2回、朝の「おはよう読書」

### 3 児童・生徒の変容と成果

#### ○ 図書室への関心が高まり、休み時間の貸し出し冊数が増えた。

- ・貸し出し冊数の増加（11月の場合）

2005年度 3263冊

2006年度 4182冊

・図書室の本を全てバーコード化し、貸し出しが簡単にできるようになった。1年生から貸し出しができるようになり、本への関心が高まった。

・図書委員会の児童が「手作りしおりのプレゼント」「紙芝居」「読書の呼びかけ」など工夫して活動できた。

#### ○ 学習活動の中で、図書室を利用したり、図書室の資料を利用して、調べ学習やまとめの学習を行うようになってきた。

・国際理解・環境教育などの図書を、必要な時期に中央図書館からの貸し出しを行い、児童の学習意欲を高めることができた。

・全職員で必要な図書の選定を行い、図書の配架を工夫することで、国語・社会科・総合学習などで、図書室を利用して学習することが多くなった。

#### ○ 福島県・郡山市・小原田の郷土資料など身近な地域の資料を整理することで、資料を活用しやすくなってきた。

・パンフレット類をファイルすることにより、資料が活用しやすくなった。

・小原田の地域にある文化財・公共機関の様子などを写真で撮影し、パソコンで見ることができるようにならため、地域調べへの関心が高まった。

#### ○ 本の貸し出しに限らず、気軽に図書室を訪れる児童が増加した。

・長いすやカーペットなどを置いたり、掲示を工夫することができた。

## 学校図書館資源共有化を生かした実践例 ～郡山市立小原田小学校～

### ①図書館環境の整備

明るく楽しい図書室をめざして



人気の本・推薦図書などの掲示



子ども達に人気の長いすとカーペット



新刊図書や調べ学習の図書などの紹介コーナー

### ②読書活動の推進

読書の楽しさが感じられる図書室に



図書委員会の児童が作った手作りのしおり



友だちと楽しく読書、真剣に本を探している



休み時間に、2年生の児童が1年生に読み聞かせ

### ③調べる学習の充実

本や資料を活用しての学習ができる図書室



総合学習や社会科・生活科で図書館で調べ学習



図書室の英語の本を見て台本を作って演じた英語劇「スイミー」



中央図書館から貸し出してくれた国際理解や環境教育の本

## 1 学校概要

本校は明治8年に開校し、今年で131年を迎える伝統校である。郡山市の中心部の文教地区に位置する。

現在、学級数26、児童数736名の大規模校である。歴史的には、安積開拓発祥の地であり、古くから教育的関心が高く、現在も地域・保護者とも学校教育に対して大変協力的である。

近くには郡山市中央図書館があり、児童の利用も多い。また、学校における各学年の読み聞かせ活動も定着してきている。

## 2 実践概要

### (1) 本校の学校図書館教育目標

読書に親しみ、読書を通して豊かな人間性を育む。  
教科学習との関連を図りながら、  
自主的主体的に図書の利用ができる  
ようにする。

### (2) 資源共有を生かす組織作り

#### ① 図書館教育部

司書教諭、図書館司書補を中心に情報教育部の協力も得ながら、計画の立案、運営を行っている。

#### ② 児童図書委員会

- ・貸し出し、返却、予約などに関わる活動
- ・読み聞かせの実践
- ・読書月間（読書郵便・イラストコンクール・しおりの配布）
- ・図書新聞・ポスター・本の紹介などによる呼びかけ

### (3) 学校図書館利用計画の策定

#### ① 年間指導計画とのリンク

年間指導計画をもとに読書や調べ学習などで計画的に図書館を利用する。

また、教科教材との関連を考え、計画的な図書の購入を図るとともに、必要に応じて公共図書館との連携を図る。特設のコーナーを設置し、学習環境を整える。

### (4) 利用指導の徹底

年度始めに、全学年を対象に利用指導を行う。

### (5) 読書活動の推進

- ① 読書タイムの設置（毎週水曜日）
- ② 公共図書館司書との連携によるブックトーク
- ③ 特別講師によるお話会
- ④ 読書奨励賞の設置（学期1回）
- ⑤ 図書館便りの発行

## 3 児童の変容と成果

図書のデータベース化により貸し出しや返却の手続きが簡単になったことは、より多くの児童の図書館利用を促したと考えられる。また、予約や検索を可能にしたことでも、関心が高まった一因といえる。

公共図書館との連携により、学習の目的に応じた多くの資料を準備できるようになったことで、児童の興味関心に応じた学習展開ができるようになり、調べ学習に意欲的に取り組む児童が多くなった。

公共図書館とほぼ同様の方法で貸し出しや返却、予約ができること、物や人などを通して公共図書館との連携を図っていることなどから、学校図書館だけでなく、公共図書館も含め、児童にとって図書館そのものがより身近なものとなったと考えられる。



手の届く高さに置かれた絵本



分かりやすい分類案内



作家別の配架

### 図書館環境の整備



**学校図書館資源共有を生かした実践例  
学習・情報センター及び読書センターとしての取り組み**

**学習活動の充実**



学習センターでの調べ学習



図書委員会による読み聞かせ



図書の検索・予約



各学年の学習に応じた特設コーナー



公共図書館司書によるブックトーク



講師によるお話会

# 郡山市立桃見台小学校

郡山市桃見台12-3

## 1 学校概要

本校は昭和4年に開校し、今年で78年目を迎える伝統ある学校である。郡山市の中心に位置しているが、周辺には学校が多く、住宅地の中にあるので、静かな環境の中にある。学級数16の中規模校である。現在、407名の児童が元気に学習に励んでいる。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館教育の全体目標

- 豊かな心を育てる。
- 人格形成に役立つ読書力の育成。
- 主体的な情報処理・活用能力の育成。

### (2) 資源共有を生かす組織活動

#### ① 図書館教育研究部

- ・コンピュータ化による連絡と研修
- ・市担当者との連絡・調整、研修
- ・利用計画の作成
- ・他校との連絡・調整
- ・公立図書館との連絡と授業への貸し出し。

授業で使う図書の紹介。

公立図書館からの本の借用。

#### ② 児童図書委員会

- ・コンピュータ操作の学習会
- ・コンピュータを使った貸し出し作業
- ・図書館活用を図る活動

読書月間の活動、読書クイズ、読み聞かせ、ポスター作成、配架の工夫

#### ③ 読書活動の推進

- ・ボランティアによる読み聞かせの実施  
「お話卵の会」「お話玉手箱」
  - 年間計画を立て、ボランティアの方達によるお話会を進めている。
  - 授業時間を使う方法と、休み時間を使う方法の2通りの方法で実施している。
  - ・朝の読書タイム
- 週2日、朝の会の前に、各教室で実施  
8時20分～30分の10分間

### ・読書月間

(11月の読書週間に合わせて実施)  
4週間の期間中に読んだ本の冊数(下学年)とページ数(上學年)を記録に残す。記録の対象は物語として、物語をたくさん読ませるようにする。学年ブロック毎に推薦図書を選定し、児童に知らせる。

保護者にも結果を知らせる。

### ・親しみやすい図書館環境作り

話題になっている本の紹介  
季節感のある図書館環境の工夫  
詩の紹介  
廃棄本を活用した掲示物の工夫

## 3 児童の変容と成果

### ○ 平成17年度の年間読書量

1人平均70冊  
最高で180冊

○ 開館時間は1日3回あるが、どの時間も利用する児童で賑わっている。  
読書量はさらに増える傾向にある。

○ 「本は友だち」に載っている図書は全て揃えて、学習で活用している。

○ データベース化による成果として、読書の記録を個別にプリントし、児童に渡すことが簡単になり、読書の意識がさらに高まっている。また、図書委員の意識の高揚も見られた。

○ 資源共有化により、公立図書館の図書を授業で使う機会が増えてきた。校内の図書だけでは限られていた資料が、資源共有化をすることにより、豊かになり、児童の学習に深まりと広がりがでてきた。

○ 「戦争」「ごみ」「米」「郷土」など、調べ学習で使う図書をシールで区別することにより、利用しやすくなり、授業での活用が増えている。

## 学校図書館資源共有を生かした実践例

郡山市立桃見台小学校

### 1 豊かな授業をめざして



1年生国語  
「自動車くらべ」  
公立図書館、  
他校の図書室  
より図書や資料  
を借りて授業に  
活用する。



### 2 豊かな心をめざして



### 図書委員とボランティアによる読み聞かせ

- ・図書委員は委員会活動の中で計画、実施。
- ・ボランティアは月1回程度実施。

### 3 豊かな活動をめざして



資料コーナー

調べ学習

コンピュータによる貸し出し

## 1 学校概要

本校は、郡山市のほぼ中央部、文教施設に恵まれた閑静な住宅街の中にある。

昭和30年、橘小学校分室として「橘薰る」から命名し開校、本年で創立51周年を迎える。

現在、学級数25、児童数640名の中規模校である。保護者は、全国規模で異動するいわゆる転勤族がほぼ半数を占める。

P T A活動が盛んで、学校の教育活動に対して協力的である。P T Aの様々な支援のひとつとして、各階の廊下に「菜の花文庫」という読書スペースが設置されており、児童がいつでも本に親しめる環境にもなっている。また、本校は、郡山市中央図書館が近いため、児童の利用も多い。

## 2 実践概要

### (1) 本校の学校図書館教育目標

読書環境を整備し、児童の読書に親しむ芽を育て、読書力を養い、良い読書生活の態度を育てる。

図書の充実に努め、図書館及び図書館利用に関する児童の基礎的な知識、技能、態度を育てる。

### (2) 資源共有を生かす組織作り

#### ①図書館教育部

- ・司書教諭、図書館司書補を中心に、企画、運営を行っている。

#### ②児童図書委員会

- ・貸し出し、返却、予約などに関わる活動
  - ・読み聞かせの実施
  - ・読書月間（しおりの配布、多読児童の氏名・写真の紹介）
  - ・テレビ放送による新刊図書・おすす

めの本の紹介、ポスターによる呼びかけ

### (3) 学校図書館利用計画の策定

- ①年間指導計画とのリンク

### (4) 利用指導の徹底

- ①年度初めに2学年以上を対象に利用指導を行う。（図書館のしおりを配布）

- ②1学年には年度末に利用指導と貸し出し・返却の体験を行う。

### (5) 読書活動の推進

- ①読書の時間の確保（学年に応じて朝の時間「かがやきタイム」を活用）

- ②図書館だよりの発行

- ③奨励賞「Reading 20」の発行（読書月間における推薦図書20冊読破児童が対象）と校内放送での紹介

- ④図書の購入希望調査（先生方と児童それぞれに実施）

- ⑤菜の花文庫の整備

## 3 児童の変容と成果

図書のデータベース化は、児童の図書館利用を促したと考えられる。その理由として、貸し出しや返却の手続きが簡単になり、時間がかかるなくなったことや予約や検索ができるようになったことが挙げられ、児童の関心が高まったと考えられる。

また、蔵書管理も容易になり、長期休業前後の図書の返却が短時間にできるようになった。そのため、児童の読書意欲を低下させることなく、貸し出しが行えるようになった。

本校は中央図書館に近いので、学習に必要な本が校内で不十分な場合に借り出したり、児童がシリーズものの新刊などを検索して借りに行ったりするなど、図書館はより身近になったと考える。

## 学校図書館資源共有を生かした実践例 学習・情報センター及び読書センターとしての取り組み

### 環境の整備・充実



### 委員会の活動例



### 読書月間の取り組み



## 1 学校概要

明治8年創立、131年の歴史があり、地域の中心となって歩んできた学校である。現在は、学級数21、児童数556名。

以前から図書館教育に力を入れており、平成15年には「読書活動推進文部科学大臣賞」を受賞。今年度は、第35回全国学校図書館研究大会の視察見学校として図書館経営の創造的な実践に向けた推進活動を見学していただいた。

## 2 実践概要

### (1) 富田小図書館の概要

閲覧室（絵本コーナー）、物語コーナー、おはなし会コーナーを備えており、複数の学級が同時に図書室を利用できる。また、コンピュータ室が併設されているため、メディアを効果的に活用しながら調べ学習を進めることもできる。蔵書数は13,000冊を超え、小学生新聞やビデオテープ、大型絵本やペーパーサートなども所蔵している。

### (2) 図書館教育の目標

指導の重点を「学びの基礎を培う、読書活動の推進」として、『本に親しむ』『本から学ぶ』『本を通して考える』子どもをめざして取り組んでいる。

### (3) 計画

「図書館運営年間計画」「読書・メディア活動推進年間指導計画」を作成し、実践を進めている。

### (4) 主な取り組み

①「図書館運営年間計画」「読書・メディア活動推進年間指導計画」による実践

#### A 「子ども読書の日」集会（4月）

- ・学年に応じた本の紹介
- ・読み聞かせ

#### B 図書館利用ガイダンス（5月）

#### C ふくろう（読書）月間（10月）

#### D 各学年の実践

#### 第4学年 国語科「本と友達になろう」

- ・親子で本に親しむ

#### 第6学年 総合的な学習

#### 「未来に向けて発信しよう」

- ・郷土資料を生かした調べ学習

#### E ブックリストの作成

#### ② 読書推進のための環境整備

#### A コンピュータでの貸出や返却、検索や蔵書管理

#### B 多読者の表彰「ふくろう賞」

#### C 「おすすめの本」の紹介

#### （低・中・高学年別ブックリスト）

#### D 朝の読書（毎週火・木曜日）

#### E 児童図書委員による本の紹介（毎週木曜日）や読み聞かせ（月1回）

#### ③ 地域・家庭との連携による読書活動

#### A 読み聞かせボランティアによるおはなし会（年間6回）

- ・「七夕おはなし会」（7月）

- ・「節分おはなし会」（2月）

#### B 地域子ども読書クラブ

#### 「富田ブックフレンド」

#### C 家庭読書の奨励「ふくろうDAY」

## 3 児童の変容と成果

- ・効率的に図書の貸し出しと返却を行うことができるので、図書の貸出冊数が増加した。
- ・必要に応じて容易に統計を得、本の購入や紹介、読書指導に生かすことができるため、本に親しむ児童が増えた。
- ・目的に応じた図書を広く検索・収集することができるところから、児童は充実した調べ学習を進めることができるようになった。



「子ども読書の日」集会



朝の読書



本の貸し出しと返却



図書館利用ガイダンス



朝の放送での読み聞かせ



6年授業「読書紹介」

### 読書活動の推進

ふくろう賞の表彰



「読書月間」  
ふくろうの木

## 「学びの基礎を培う、読書活動の推進」 「本に親しむ」「本から学ぶ」「本を通して考える」

### 調べる学習の充実



メディアの効果的な活用



図書資料を使った調べ学習

### 地域・家庭との連携



ボランティアによるお話会



4年授業「親子読書」



ブックフレンド

## 1 学校概要

本校は昭和58年に開校し、今年で25周年を迎える学校である。市内を見下ろす小高い丘の上にある新興住宅地にある学校である。現在、学級数28、児童数749人の大規模校である。さらに開発が進むことで、これから児童数増加が見込まれている。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館の概要

児童数増加に伴い、平成17年度に校舎増築がなされた。その際図書室は、学習センターとしての機能をもつことを目的に、パソコンルームと合設した。

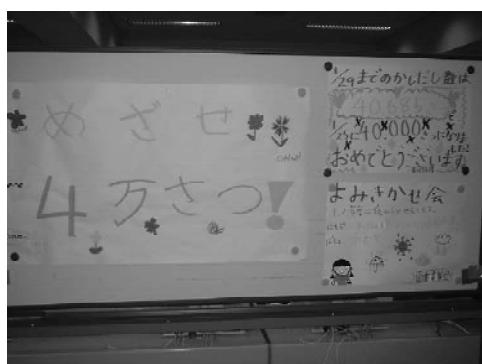
開校当時より司書補が常駐し、司書教諭との協力で学校図書館の運営に当たっている。「子ども達が足しげく図書館に来れるようすること」「多くの本にふれてもらうこと」「読書の楽しさを味わわせること」を運営目標に取り組んでいる。平成16年度2学期よりデータベース化され、コンピューターによる貸出・返却がスタートする。

### (2) 本校の主な取り組み

① 1年間の目標を決め、読書に対する全校的な取り組みをする。

- 「全校で、めざせ！！4万冊」の目標を掲げ、具体的な数字で全校の意識化を図る。(1週間に約1冊、1年間に1人45冊を目標とする)

〈1年間の目標掲示〉



- 目標を図書室掲示板・昇降口に掲示し、目標を意識化させる。

〈貸出冊数の掲示〉



- ② バーコードでの図書の貸し出し、返却に伴う利用時間の調整することで、短い時間での図書の貸し出し、返却をスムーズにする。

・学年に応じて、利用時間を設定する。

1年・・朝の時間

2年・・清掃終了後

その他の学年・・業間時・昼休み

放課後

〈データベース化後の貸し出しの様子〉

(1年生の様子)



- ③ 個人利用の記録を作成する。

・バーコードの利用でも、個人の記録が残せるように「読書の記録」(上学年、下学年用)を使用する。

- ④ 国語の教科書に出てくる本などの一覧表を先生方に配付し、学習の中での参考図書、資料の活用を図ってもらう。

- ⑤ 図書委員会の活動を工夫する。
- ・全校生に向けて 毎週金曜日 校内放送「ブックステーション」  
読書案内、朗読、クイズ、新刊紹介、お薦めの本の紹介など
- ⑥ 読書月間の位置付けをする
- ・お話を聞きましょう会
  - ・親子読書
  - ・11月31日・・・全校集会「読書クイズ大会」実施
- 〈1年生のおはなし会の様子〉



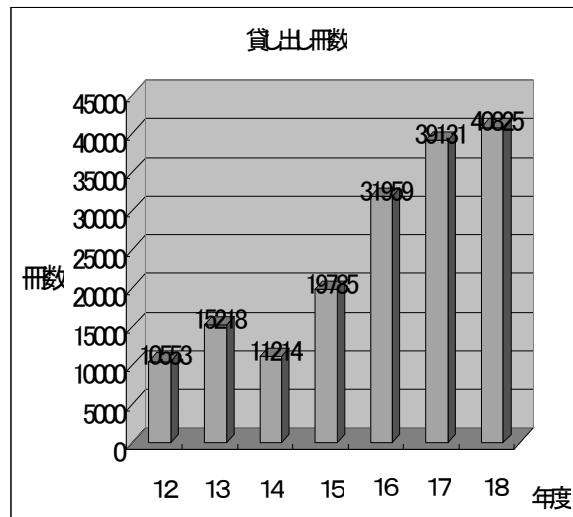
〈全校集会 読書クイズ大会の様子〉



- ⑦市図書館との連携を図る。
- ・総合・各教科の調べ学習での積極的利用が図れるように準備する。
- 〈おはなし会に使用する本を利用する〉



### 3 児童の変容と成果



・表は個人の貸出冊数のみであるが、調べ学習との貸し出しについては冊数に入っていない。

- 目標の4万冊を18年度は達成できた。また、図書利用の関心が高まり、低学年から読書に親しむ子供が増加している。

〈主な理由〉

- ・データベース化により、貸出や返却の手続きが簡単になったため。
- ・データベース化により、1年は9月より貸出していたのが、6月より貸出ができるようになったため。
- ・データベース化により、本の検索・管理がしやすく、統計などもすぐにできるので先生方への情報・啓蒙もしやすい。
- ・「全校で4万冊」という全校の目標が意識され、関心が高まった。
- ・学年に応じて、利用時間を分散するように連絡調整する事で、貸出がスムーズになった。
- ・市図書館との連携で使いたい本の領域が広がり、冊数も集めることができる。先生方の申し出にパソコンですぐに所在の有無を調べたり、貸出の予約ができたりするなど、迅速な対応できるのも好評である。

# 郡山市立富田西小学校

郡山市富田町字大十内85番地の5

## 1 学校概要

本校は平成5年に開校し、創立14年を迎える学校である。近隣の3つの学校から分割統合されてできた学校で、郡山市の北西部、国道49号線近くに位置する。学区は新興住宅地と大型団地を合わせ持つ地域である。学校の近くには、逢瀬川が流れ、安達太良山を遠く望むことができる。

現在、学級数23、児童数646名の中規模校である。本校には、第1図書室（読み物中心）と第2図書室（調べ学習中心）があり、読書センターと学習センターとしての図書室が分かれているつくりになっている。

学校の西隣に地域の公民館があり、子どもへの本の貸し出しが行われている。また、学区内には、郡山市立希望ヶ丘図書館もある。これらの図書館のカードを持ち、利用をしている児童も多い。

## 2 実践概要

### （1）本校学校図書館教育の目標

- 学習センターとしての学校図書館を正しく利用し、学習に活用できる児童を育てる。
- 進んで本に親しみ、豊かな心を育てる。

### （2）資源共有を生かす組織づくり

#### ①図書館教育研究部

図書館教育主任、司書補、児童図書委員会担当の教諭を中心にして、コンピュータ操作・利用法に関する研修会の実施。利用計画の作成と図書室運営の検討を行う。

#### ②児童図書委員会

コンピュータ操作を学び、貸し出し・返却の仕事や配架の工夫に生か

す。

### （3）学校図書館利用計画の策定

#### ①年間指導計画とのリンク

各学年の年間指導計画をもとに読書活動や調べ学習により図書室を利用する時期・単元や内容を把握し、計画的な利用を行う。

#### ②利用指導

学級ごとに、オリエンテーションの時間を設定し、学校図書館の利用の仕方や図書資料の扱い方について学習を行う。

### （4）読書活動の推進

- ・朝の読書タイムの実施
- ・図書館だよりの発行
- ・季節や行事に関した「おすすめの本」コーナーの設置

## 3 児童の変容と成果

データベース化により、貸し出しや返却の手続きが簡単になったため、利用が増えた。以前は、カードへの記入が難しかったため、個人貸し出しは3年生以上であった。（1・2年生は学級文庫の利用だけ）しかし、1年生からの個人貸し出しが可能となった。また、個人の貸し出し数を増やすことができ、読書量が増え、読書領域が広がった。また、児童図書委員がコンピュータ操作を覚えたことさらに意欲的に活動するようになった。検索機能を生かし、「おすすめの本」コーナーを設置したり、校内放送で呼びかけたりして、図書室利用の関心を高めることができた。

学習活動では、児童が必要とする図書資料をたくさん・早く探すことができるようになり、効果的に学習を進める手助けができた。児童が、「自分の思いや願いに応え、学習活動支えてくれる図書室」という思いを持つようになった。

## 学校図書館資源共有化を生かした実践例

～郡山市立富田西小学校～

### ＜読書活動の推進＞



コーナーの設置



利用の様子



読書環境の工夫

豊かな心を育て、学習  
を支える学校図書館を  
目指した取り組み

### ＜学習を支える活動＞



コンピュータでの検索

○3年 国語『ちいちゃんのかげおくり』



学習環境の工夫

○学習に関連した本の紹介

冒険の本を読んで、物語を書く

学習に生かそう！

あまんきみこ  
さんの本は、  
他にもあるの  
かな……



どれを読んで  
みようかな…

## 1 学校概要

本校は、明治7年に開校し、今年で133周年を迎える伝統のある学校である。自然に囲まれ、緑の多い静かで落ち着いた環境の学校である。

現在、学級数25、児童数659名の大規模校である。素直で明るい児童が多く、保護者も学校の教育活動に協力的である。

「じょうぶな体で進んで学び、実行力とおもいやりのある子どもの育成」の教育目標のもと、目標を持っての体力作りや毎日の読書タイムなどでの読書活動の推進など心身の教育に力を入れている。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館教育の目標

- 読書環境を整備し、児童の読書力を養い、読書を愛好する芽を育てて、よい読書生活の態度をつくる。
- 図書館の利用を計画的に行い、進んで図書の利用ができる経験を持たせる。
- 巡回図書の活用などで、多くの先生からの希望を取り入れる。

### (2) 学校図書館運営の基本方針

基本図書の充実に努め、図書館及び図書館利用に関する基礎的な知識、技能、態度を育て、児童の読書力を育てる。

### (3) 努力点及び実施計画

- ① 図書館及び図書の利用を活発にさせ、読書力を高めさせる。
  - ・ 学校図書館の利用指導計画の検討と活用
  - ・ 保護者の啓蒙(推薦図書等の紹介他)
  - ・ 青少年読書感想文コンクールへの参加
  - ・ 図書館利用の統計
  - ・ 読書週間の設定
- ② 図書館利用の方法を理解させる。
  - ・ 「図書館のしおり」の作成・配布・

活用(2年生と発達段階に応じての配布)

### ③ 図書館の整備に努める。

- ・ 児童図書委員会の組織作りと奉仕活動の指導
- ・ 図書の計画的購入と充実(標準冊数に近づけるようにする。)
- ・ 図書の整理と環境整備

### (4) 活動の実際

#### ① 図書館教育部

- ・ 利用指導(オリエンテーション)
- ・ 本の分類・配架場所の確認
- ・ コンピュータによる検索方法
- ・ 図鑑や百科事典の使い方
- ・ 図書館便りの発行
- ・ 新刊図書・推薦図書の紹介
- ・ 市立図書館との連携
- ・ パスファインダーの作成
- ・ 学級・学年ブースへの本の貸し出し
- ・ 先生方による本の紹介

#### ② 児童図委員会

- ・ 本の貸し出し
- ・ 読書月間の「読書郵便」の世話
- ・ 昼の放送での紙芝居

## 3 児童の変容と成果

図書利用の関心が高まり、利用が増えた。

〈主な理由〉

- ・ データベース化により、貸し出しや返却の手続きが簡単になった。
- ・ データベース化により、利用頻度の高い本がわかり、購入時の参考にすることができた。
- ・ 読みたい本、必要な本の検索が簡単にになった。
- ・ 個人の読書量が分かることで、意欲が向上した。
- ・ 司書補との連携により、学校図書館にない本でも公立図書館から借りることができ、利用しやすくなった。
- ・ 毎日の読書タイムのために本を手元に置くようになった。

- ・ 週末の貸し出しを一人2冊にしたところ、貸し出し数が増え、家庭での読書量が増加した。
- ・ 学級や学年ブースへの国語を中心とした関連図書の貸し出しによって、本を読む機会が増えた。

#### 4 活動風景

##### (1) 先生方のお薦めの本の紹介



##### △ 10月～11月の読書月間に行った「先生方のお薦めの本」の掲示

先生方に協力してもらって、子どもに読ませたい本・是非読んで欲しい本を書いたものを図書館前の廊下に掲示した。

##### (2) 図書委員会児童による紙芝居の練習



##### △ 委員会の活動として行った「昼休みの放送での紙芝居」の練習

学級の委員ごと（各学級3人程度）に紙芝居を決めて、委員会の時間や休み時間、放課後などを利用して自主的に練習し、昼のテレビ放送に流した。

##### (3) 図書室を使った調べ学習の様子



##### △ 10月の学習発表会に向けての総合の調べ学習

各学年ごとのテーマに沿って図書資料やインターネットを使って調べ学習を行った。その際、学校にない図書資料については、司書補が市立の図書館から関連図書を借りてきてくれて、活用することができた。

##### (4) 司書補によるレファレンス



##### △ 調べ学習時に目的の図書資料を探す児童へのレファレンス

下学年の児童には、本の分類や百科事典類の使い方などを指導するが、一人一人の児童へも対応して、学習を補助していた。

# 郡山市立白岩小学校

郡山市白岩町字柿ノ口 1 - 1

## 1 学校概要

本校は、開校 133 年の伝統校で、郡山市の東側に位置し、農村地帯と住宅地が入り交じっている。全校生 88 名、6 学級の小規模校で、少人数のため家庭的な雰囲気を持った学校である。古くからの家も多く、父母や祖父母も卒業生の家庭もあるが、過疎化の傾向がみられ、児童数が減少している。

近くに公共の図書館などの施設がないためそれらを利用するることは少ない。そのため、各教科やの総合的な学習では、学校の図書室を活用することが多い。

毎月、低学年対象に読み聞かせをしてくださる保護者の方がおり、児童は楽しみにしている。

## 2 実践概要

### (1) 図書館教育の目標

- 児童の読書力を高め、読書を愛好する心と読書態度を育てる。
- 生涯学習の一環としていくための基礎的経験を習得させる。

### (2) 資源共有を生かす組織活動

#### ① 図書館教育部

- ・児童図書等の選択と購入
- ・図書及び図書室の整理と整備
- ・読書指導（読書意欲の向上）
- ・図書委員会の指導（委員会活動の活性化）
- ・コンピュータ操作・利用法等に関する研修会への参加及び校内研修会の実施

#### ② 児童図書委員会

- ・コンピューター操作による貸し出し
- ・図書新聞の作成
- ・読み聞かせの実施
- ・読書チャンピオンの表彰（年度末）

#### ③ 保護者ボランティア

### ・読み聞かせ活動（低学年）

#### (3) 学校図書館利用計画の策定

- ① 年間利用計画とのリンク  
年間指導計画をもとに、読書活動や調べ学習などで計画的に利用する。
- ② 図書室の利用の仕方についての指導  
学級活動の時間を利用し、中学年児童を対象に行う。

#### 〈指導内容と対象学年〉

- ・図書室の使い方を知ろう（3年生）
- ・図書室の使い方（4年生）

#### (4) 読書活動の推進

- ① 学級文庫への貸し出し
- ② 「読書タイム」

毎週月曜日 8:25 ~ 8:40

#### ③ 学級活動を利用した読書指導

#### 〈指導内容と対象学年〉

- ・よい本をたくさんよもう（1年生）
- ・本を読もう（2年生）
- ・楽しい読書（3年生）

## 3 児童の変容と成果

・コンピューターの導入により、貸し出しや返却の作業がスムーズに行えるようになり、短時間に多くの児童が図書室を利用できるようになった。また、図書委員会の児童の意欲も高まり、積極的に活動するようになった。

・読書活動や調べ学習などで、図書室を利用することが多くなり、児童も図書室での学習を好む傾向が見られるようになってきた。学習を進めるに必要な本や、自分が読んでみたい本などを自分で探し、読んでいる姿が見られる。

・読書タイムの実施や学級文庫の設置により、身近に本に触れるができるようになった。時間を見つけて読書をするなど、読書の時間が増えてきている。

## 学校図書館資源共有化を生かした実践例

### 図書委員会の活動



コンピュータを活用した貸出・返却



図書新聞作り



全校生を対象にした読み聞かせ活動



### 図書室を利用した学習活動



国語科の学習で

### 読書活動の推進



朝の読書の様子



保護者の  
ボランティアも



学級文庫  
の利用

# 郡山市立東芳小学校

郡山市阿久津町字大閻 250

## 1 学校概要

明治16年に創立され、長年地域の教育を担ってきた学校である。学校周辺の農家では、ネギやキュウリ、トマトの栽培が盛んであり、校庭では四季の花々を楽しむことができる。

現在、学級数8、児童数124名の小規模校である。

## 2 実践の概要

### (1) 資源共有を生かす環境

平成17年度から図書資料のデータベース化によりコンピュータによる貸出・返却作業がスタート。

3年生以上10名による図書委員会は毎日昼休みに交替で本の貸し出し当番を分担し行っている。

### (2) 学校図書館教育の全体目標

- ・読書に親しませ、読書の習慣を身につけさせることにより、豊かな人間性の育成に努める。
- ・発達段階に即した望ましい読書活動を促進する。
- ・図書および図書館の望ましい利用の仕方を身につけさせる。
- ・辞書や図鑑、資料の活用を図り、情報を収集・活用できる能力を育成する。

### (3) 目標達成のための図書館活動

- <図書館運営の充実を図る>
- ・子どもが親しみやすい図書館への環境整備
- ・計画的な図書の購入
- <図書館利用者の増大を図る>
- ・新刊図書の紹介
- ・多読者の表彰（多読賞）

- ・読書週間の設定（11月の2週間）
  - ・ボランティアの方々による読み聞かせ
- <図書館利用の指導強化を図る>
- ・長期休業中の貸し出し計画
  - ・低学年教室への貸し出し
- <朝の読書の充実を図る>
- ・読書タイム（15分）の徹底
  - ・低学年教室における貸し出し図書の充実
- <郡山中央図書館との連携>
- ・郡山中央図書館からの配本
- <学習センターとしての機能の充実>
- ・調べ学習ができる環境・図書の整備

## 3 児童の変容と成果

- 図書委員会による新刊図書の紹介や多読賞の表彰により、子どもたちの図書利用の関心が高まり、図書室の利用者が増えた。特に11月に読書週間を設け、しおりのプレゼントを行ったところ、前月の総貸出数299冊に対し、513冊という大きな伸びが見られた。読書週間にたくさんの本を読み、本の楽しさを味わった子どもたちが12月以降も引き続き図書室に通うようになり、読書週間後の図書室利用者は増加傾向にある。
- 下学年を対象としたボランティアの方々による読み聞かせにより、絵本の楽しさを味わい、進んで本を読もうとする姿が見られた。
- 先生方全員に、授業や委員会・クラブ活動で必要な図書を提出してもらい、計画的に購入したことでの図書の充実を図ることができた。また、調べ学習に必要な本の計画的な購入により、学習センターとしての機能も充実させることができた。

## 学校図書館資源共有を生かした実践例～郡山市立東芳小学校～

### ①新刊図書の紹介



下学年・上學年に分けて、新刊図書紹介のコーナーを設けた。

### ②多読賞の表彰



図書室の廊下に掲示

### ③低学年教室への貸し出し



### ④ボランティアの方々による読み聞かせ



### ⑤朝の読書タイム（15分）



### 1 学校概要

本校は、郡山市の南部（住宅地）に位置し近くに五百渕公園や南川遊歩道があり、自然環境に恵まれ、落ち着いた環境にある学級数22、児童数612名の学校である。「ゆとりの中で『生きる力』を育む、調和のとれた教育課程の創造」をテーマに「確かな学力の育成」と「豊かな心の育成」において学校図書館を活用している。

### 2 実践の概要

#### ○実践の特色

本校では、平成16年度より、図書資料のデータベース化による貸し出し、返却が行われるようになり、さらに司書教諭も専任となり、学習・情報センター、読書センターとしての両機能を発揮できるよう施設の改善を図るとともに組織的、計画的に図書館を活用している。

#### (1) 学習・情報センター及び読書センターとしての環境整備

学校図書館における学びの指導と読書指導の充実を図るために図書室自体にも2つの機能をもたせることができるようにし、さらに、図書室全体を明るく心なごむ雰囲気とした。

- ・第一図書室（お話の部屋）と第2図書室（学びの部屋）
- ・畳、ベンチ、ミニ机などの配置の工夫
- ・日本十進分類表の掲示
- ・おすすめの本のリストの掲示
- ・時計まわりの配架
- ・調べる学習の進め方の掲示

#### (2) 学習・情報センターとしての学校図書館

司書教諭が全学級を対象として週に一度図書室でTTによる授業を実施している。学びの体系表に基づき、各学年の学び方年間計画を作成し、図書館活用の授業を行っている。学習活動において情報活用能力を高めるために様々な工夫をしている。

- ・学び方年間指導計画の作成
- ・「調べる学習の進め方」の作成と活用
- ・学びの指導の指導資料作成
- ・調べる学習の図書資料の充実
- ・目的にあった図書資料を自分で見つけるための工夫

#### (3) 読書センターとしての学校図書館

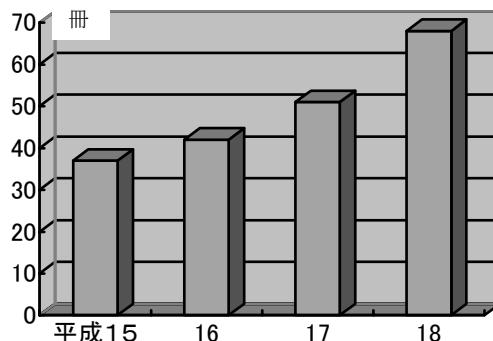
子どもたちの主体的な読書活動を促すために継続的に様々な働きかけを行っている。

- ・朝の読書活動の推進（週3回）
- ・開館時間の拡大
- ・おすすめの本の選定と読書の奨励
- ・春と秋の読書祭りの実施
- ・児童会活動による本の紹介や読書意欲の向上
- ・家庭との連携による読書活動の推進
- ・読書意欲を高めるための図書館行事の実施

### 3 児童の変容と成果

○貸し出し冊数が3年前に比べて増加している。進んで、読書に取り組み、おすすめや長編の本にも挑戦しようとする児童も増えている。児童にとって、本が身近なものとなってきた。

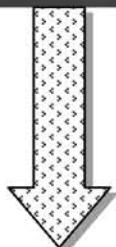
#### 《年間一人あたりの貸し出し冊数の変化》



○学び方の指導により、目的に応じた図書資料を自分で探したり、効果的にまとめたり、表現したりする等、課題解決学習の学びが児童に定着してきている。

○データベース化により、一人一人の貸し出しの状況について手軽に把握でき、指導に生かすことができている。

## 学習・情報センター、読書センターとしての環境整備



第1図書室  
(お話の部屋)  
900番代の本のみ  
の時計回りの配架

ピンクの書架  
ミニ机、ベン  
チなど  
配置の工夫



第2図書室  
(学びの部屋)  
0~800番代の本  
時計回りの配架



インフォメーションコーナー

パンフレット、  
新聞紙の切り抜  
きなど

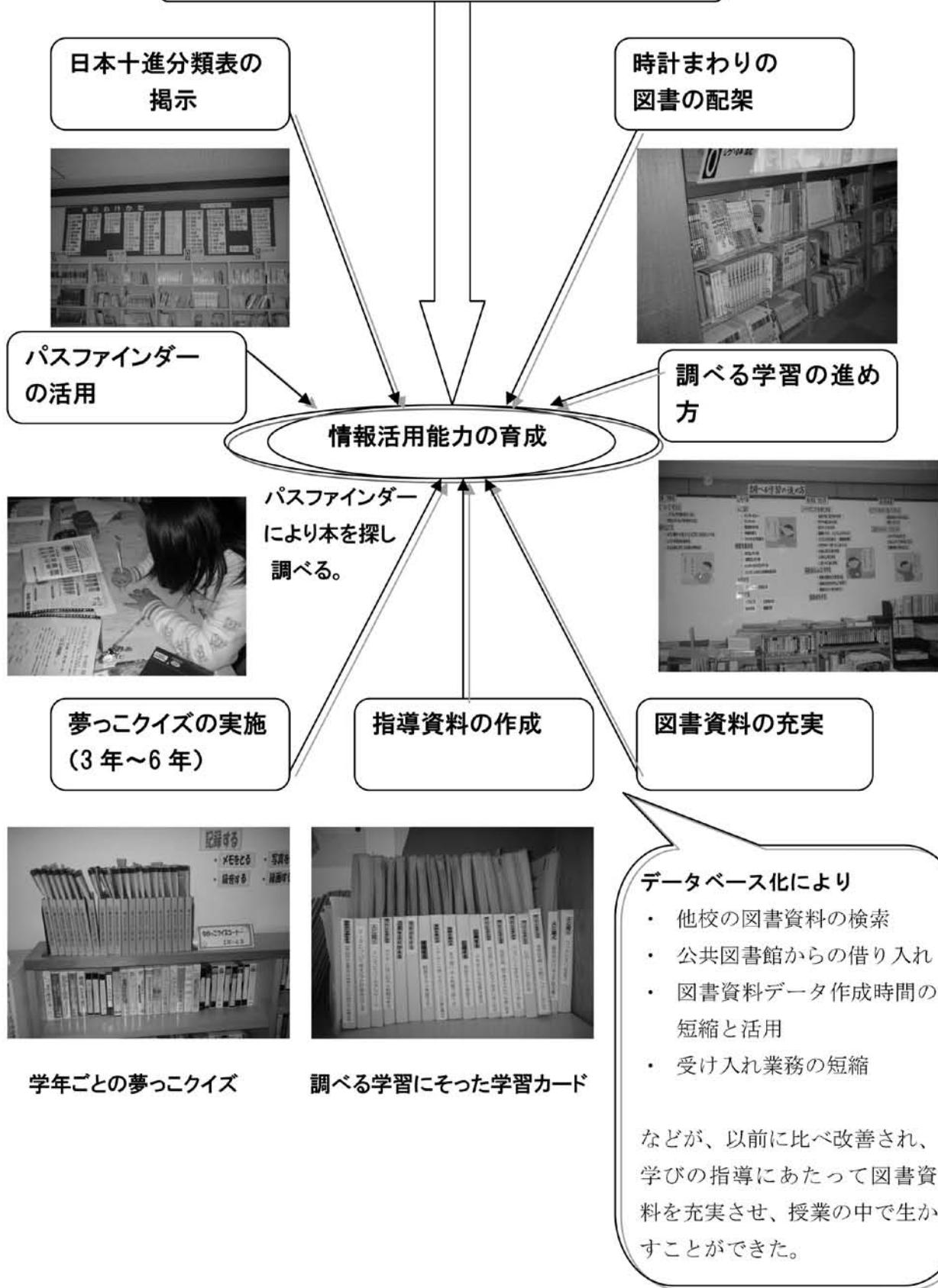
図書資料以外も  
調べるこ<sup>ト</sup>がで  
きるよう。



ビデオ、パソコンでの検索

## 学習・情報センターとしての学校図書館

### 学び方年間指導計画に基づいた図書館活用の授業



## 読書センターとしての学校図書館

おすすめの本の選定（児童用）各学年30冊ずつ

開館時間の拡大  
開館時間  
朝、業間、放課後



本の紹介コーナーの設置



教職員による本の紹介  
(読み聞かせ等)



「朝の読書」の実施  
月、水、金  
(8:20~8:35)



家庭学習のすすめとしての  
おすすめの本の選定  
保護者へのよびかけ

絵本賞読者賞への参加



豊かな感性や情操を育む  
読書活動充実のために

データベース化により

貸し出し時間の短縮により  
朝も開館でき  
た。

低学年から図書室での貸し  
出しができる  
ようになっ  
た

ボランティアの協力を得てのお話会

読書まつりの実施

(春、秋2回)

- ・読書郵便
- ・リーディングシアター
- ・読み聞かせ
- ・辞書引き大会
- ・ペープサート
- ・大型かみしばい
- ・パネルシアター
- ・放送による本の紹介



↑  
児童会活動として  
児童の企画、運営で  
実施



## 1 学校概要

昭和51年、学区改正により桑野小学校より、164名、桃見台小学校より140名、富田小学校より140名の児童と新入生・転入生の174名の陣容で福島県郡山市立大島小学校として開校した。

平成18年度は、学級数34、児童数917名。地域、保護者から多くの支援、協力を得ている。保護者の読み聞かせは、すっかり定着している。

## 2 実践概要

### 本校の図書館教育目標

読書を通じ、豊かな人間性を育成する。  
図書館の情報を効果的に活用する力を育てる。

(1) 効果的に図書館利用ができるよう  
にするために

#### ○ 図書館部

- ・ 計画立案、運営
- ・ 利用指導
- ・ 学級文庫の貸し出し
- ・ 図書購入計画

#### ○ 読書活動の推進

- ・ 読書賞  
　　学期ごとに、多読の児童に賞状を与える。
- ・ 校内読書感想文コンクール実施
- ・ 朝の読書タイム実施
- ・ 貸し出し・返却作業のコンピュータ活用
- ・ 図書館だよりの編集、発行

(2) 児童図書委員会の活性化

- ・ 日常の貸し出し・返却
- ・ 読書週間の取り組み
- ・ 読書郵便の計画・実施
- ・ 読み聞かせ会の実施  
　　1~3年生対象にし、金曜日の読書タイムに実施。

絵本・紙芝居を読み聞かせる。

学校図書館で足りない場合は、中央図書図書館からも借りるようにしている。

#### ○ 保護者の読み聞かせ

「子どもたちにもっと本の楽しさを伝えたい」という思いから この会が生まれ、「カルガモおはなしの会」と名付けられた。現在会員は10名。

##### ① 活動内容

全学年を対象に、絵本などの読み聞かせ

##### ② 時間

金曜日、朝の読書タイムの時間

##### ③ 場所

各教室

## 3 児童の変容と成果

○ データベース化により、貸し出しや返却の手続きが、容易にできるようになり、図書館利用の関心が高まった。

○ 各教科、総合の時間などで必要な図書をコンピュータで検索し、容易に情報を取り入れができるようになった。

○ 貸し出し集計表により、児童の読書傾向が把握でき、読書指導が効果的にできるようになった。

○ 児童は保護者や委員会の読み聞かせを心待ちにし、読書への関心や意欲が高まってきた。



貸出の手続きをしているところ



返却の手続きをしているところ



和やかに読書する児童たち



『カルガモおはなしの会』による読み聞かせ



図書委員による読み聞かせ

### 1 学校概要

本校は昭和52年に開校し、今年30周年を迎える若い学校である。

郡山中心部より西方に位置し、新興住宅地として発展しつつある。

現在、学級数25、児童数516人(H18.4.1)保護者はPTA活動に協力的であり、教育に関する関心も深い。

学校のすぐ隣には公民館があり、公共図書館も近い。教科や総合的な学習の時間に必要な図書を借りたり、情報を得たりなど連携を図ってきた。

### 2 実践概要

#### (1) 学校図書館利用計画

- ①オリエンテーションによる利用指導
  - ・1年生・・・7月から本の貸出返却の利用指導を行ってから貸出開始。
  - ・2年生・・・6月の貸出開始時に、利用指導。読書クイズや課題図書のブックトークなども行う。
  - ・3年生・・・5月から貸出開始。分類・配架を、ブックトークなどで指導。
  - ・4・5・6年生・・・4月の貸出時に簡単にバーコード貸出の説明。

#### (2) 資源共有を生かす組織活動

- ①図書館教育担当部
  - ・コンピューター操作・利用法に関するマニュアル作成・配布。
  - ・環境整備
  - ・他校・公共図書館との連携
- ②児童図書委員会
  - ・コンピューターによる貸出返却操作を学ぶ。
  - ・本の配架・修理の仕方
  - ・1・2年生への読み聞かせ(毎週金曜日の朝実施)

- ・読書週間・・・年2回実施。6月は1週間、11月は2週間行う。読書郵便・ジャンケン貸出・手作り絵本コンテスト・手作り紙芝居・劇・体験1日図書委員など、図書委員が相談して決めて準備、実施する。

- ・図書室の掲示作り・・・季節の掲示を作成。

#### (3) 読書啓蒙

- ①学級文庫への貸出
- ②朝の読書・・・毎週金曜日
- ③本の紹介・・・図書館便り・図書室掲示・学級に出向きブックトークで紹介。
- ④金曜に2冊、3連休前ジャンケン3冊貸出、6年の3学期は希望があれば1冊以上貸出。

### 3 児童の変容と成果

- ・図書館整備や他校・公共図書館との連携を充実させることにより、利用しやすい図書館となり使いたい図書がすぐ入手可能となった。その結果、学習・読書両面において図書室が頻繁に利用されるようになった。
- ・資源共有により他校の蔵書が検索でき、自校に不足な資料を購入する際の参考にしたり、調べ学習で資料が足りない場合に近隣校に借りることもできるようになった。
- ・貸出の統計や傾向が簡単にわかるようになったために、来年度の購入計画や読書計画が立てやすくなった。
- ・コンピューター操作などにより児童委員会も興味を持ち、意欲的に活動するようになった。

学校図書館資源共有化を生かした実践例 ~郡山市立小山田小学校~

調べ学習

〈4年総合の学習〉



〈他校から借りた本〉



読書啓蒙

〈本の紹介〉



〈読書週間入り口アーチ〉



図書館整備

〈季節の掲示〉



〈壁面掲示〉



〈廊下掲示〉



図書委員会活動

〈金曜朝の読み聞かせ〉



〈貸出の様子〉



## 1 学校概要

新興住宅や県・市の公営住宅団地があり、急速に人口が増加した地域である。サラリーマン世帯が大半を占めており、共働きやパートで働いてる家庭も多い。

教育に関する保護者の関心は高く、読書講座を行うなど自主的な活動も見られる。

また図書ボランティアも15名登録しており、読書活動に協力を惜しまない保護者が多い。読み聞かせやペーパーサート・パネルシアターなどの活動は、児童・教職員に好評を得ている。

## 2 実践概要

### (1) レファレンス・サービスの充実

(図書館利用法、ラベルのしくみ、日本十進分類法の理解、蔵書検索方法、教科・総合的な学習などの参考資料ブックリスト作成)

### (2) パスファインダーの利用指導の充実

☆「年間利用指導計画」作成と実施。

(各教科の授業で図書資料を使った授業を展開する。)

### (3) 本の紹介

① 新刊図書やおすすめの本紹介。

② 読書週間等の本に関する行事の紹介。

③ 季節の行事に関する本の紹介。

### (4) 本の読み聞かせ

図書委員会児童・学級担任・図書ボランティアによる読み聞かせを毎週実施。

### (5) 読書週間行事の充実

① 読書ゆうびんの実施。

② 図書委員や先生方の本の紹介。

③ 図書ボランティア『おはなし広場』による「しきけ絵本の読み聞かせ」「ペーパーサート」「パネルシアター」

### (6) 選書の工夫

全職員参加による選書。また児童のリクエストなどの要望を考慮した選書。

### (7) 校舎内の環境整備

図書館はもちろんのこと、各学年フロアに国語の教科内容にそった資料に関する掲示と本の展示を行う。

### (8) 第七中学校との小中連携による交流活動

① 「七中生おすすめの本紹介」と「朝日が丘小からの読後感想紹介」

② 「七中晴耕雨読部」による読み聞かせ

③ 小中一環した「年間利用指導計画」と作成と利用指導の充実。

## 3 児童・生徒の変容と成果

平成16年度にデータベースの入力準備期間を経て、平成17年度からパソコンソフト「アソリ」による貸出が開始されると、貸出・返却の簡素化に伴い児童の利用が多くなる。また、図書館に対する関心が高まってきた。そのひとつとして、本の予約も容易にでき、読みたい本がすぐに手に入る利点がある。授業へのレファレンスサービスとしての蔵書検索ができ、必要とする資料にいち早くアクセスすることができ役立っている。

朝の読書はしだいに定着しつつある。また、図書委員児童や先生方の読み聞かせが充実してきた。さらに、図書ボランティアの活躍などもあり、今後、家庭読書の充実などを図る必要がある。

これからも授業に役立つ図書館、読書活動の充実に力を注いでいきたい。



1年「ほんとなかよし」  
学校司書のブックトーク



朝の読書の様子（4年生）



「七中晴耕雨読部」による読み聞かせ



4年生壁面掲示  
国語「本は友達」の紹介



図書ボランティア「おはなし広場」  
による読み聞かせ



図書ボランティア「おはなし広場」  
による本の修理

## 1 学校概要

本校は郡山市の東に位置し、創立133年という、伝統ある小学校である。保護者の中には卒業生も多く、親子三代に渡って通学したという家庭もある。学校のそばを大滝根川が流れ、春には桜が咲きほこり、秋にはいちょうが銀杏の実をつけ、自然豊かな環境である。

児童数79名の小規模校である。毎朝、全児童による職員室への元気なあいさつとともに始まる学校生活。1年生から6年生まで、縦割り清掃を始めとして、全校生で活動するが多く、異学年交流をすすめている。

### (2) 図書館の充実

#### ・蔵書の充実

新しい本の購入に際しては、先生方からの要望とともに児童の読書傾向も把握し、話題の本や賞に輝いた本等も揃え、図書館に足を運びやすくするよう配慮した。

#### ・本の配置の工夫

学年の発達段階や貸し出し回数の多い本を考慮して、貸し出ししやすいよう、書棚の配置を考え、その都度本の入れ替えを行うようにした。

## 2 実践概要

### ◎ ねらい

図書館活用への意識化を図ることで、意欲的に本に親しみ、語彙力、想像力、そして情報活用能力を育む。

#### (1) 学校図書館利用計画の作成と位置付け

- ・図書館利用のための指導の時間の確保  
　　どの学年もその発達段階に合わせて、図書館利用の仕方について指導できるよう学級活動の時間を1時間設けた。
- ・図書館利用の手引きの作成  
　　本の類別のされ方、扱い方等を示した冊子を作成し、低学年から高学年まで指導できるようにした。
- ・図書館利用のための指導体系表の作成  
　　学年の発達段階に合わせた図書館利用のための指導が行えるよう体系表を作成し、4月当初に先生方に配布した。

### (3) 読書活動の推進

#### ・読書タイムの実施

毎週木曜日、朝の10分間、全校で読書をする習慣の定着を図った。

#### ・読書郵便の実施

図書委員会の活動の一環として、秋に読書郵便を実施し、お勧めの本の紹介等を行い本に親しむ機会をより多く持てるようにした。

#### ・本の読み聞かせ会の実施

上学年と下学年間の組み合わせでの読み聞かせ会を実施し、相手に合わせて、本を選んだりわかりやすく読んだりという工夫をすることで、読む方も読んでもらう方も、本のすばらしさに触れることができた。

#### ・読書量調べ

読書量調べをパソコンの資料として先生方に配り読書傾向を把握した。

### 3 児童・生徒の変容と成果

#### 【主な変容】

学校図書館にパソコンが導入され、データベース化が始まり、児童に向けては、バーコードによる貸し出しがスタートして約3年間が過ぎた。

最初は、パソコンによる貸し出しということで、目新しさも手伝って、児童の図書館への関心は、大変高まりを見せた。それに伴って、指導者の立場としても、図書館教育の重要性を再認識することとなり、指導の強化へつながった。

様々な実践を通して、児童、教師共に、図書館についての関心が大きくなると同時に、図書館の運営や活動への質問、要望も数多く出されるようになってきた。

#### 【主な成果】

- ・ 読書量調べの配布により読書活動への意識の高まりが見られた。
- ・ 学級活動の図書館利用のための時間の確保や手引き・体系表の活用により図書館利用への意識が高まった。
- ・ 読書タイムや読み聞かせ会など様々な活動を通して、本に対して楽しさや喜びを持って親しむ児童が増えてきた。
- ・ 先生方の図書館教育への理解と取組により、全校児童の読書量は大きく伸び、また、調べ学習による図書館利用も積極的に行われ、児童の生活の中で図書館が大きな存在となってきている。

### 読み聞かせ会の様子



## 1. 学校の概要

本校は明治6年に開校し今年で133年になる伝統ある学校である。また農村部に位置し、学校を取り巻く環境は大変自然に恵まれている。特に春は由緒ある桜が見事な花々を咲かせる。

学級数は本校6学級、分校2学級あり、児童数は136名の小規模校である。地域の小学校という意味合いが強く、学校の教育活動については大変協力的である。

## 1 実践の概要

### (1) 本校学校図書館目標

- 読書の楽しさを味わわせ読書の習慣を育てる。
- 図書館の正しい利用の仕方を理解させ、正しく利用させる。

### (2) 資源活用を生かす組織作り

#### ①図書部

国語部を中心に計画運営をする。  
コンピュータ操作習得

#### ②図書委員会の活動

図書委員会を児童会組織に設ける。

- ・日常の貸し出し、返却
- ・本の読み聞かせ
- ・図書の場所当てゲーム等

### (3) 運営計画の作成

- ・個人バーコードの作成
- ・図書購入計画
- ・前期委員会の活動計画
- ・図書館利用指導
- ・図書の整理
- ・夏季休業中の読書指導
- ・読書感想文の奨励

- ・図書利用状況把握
- ・読み聞かせボランティア募集
- ・新刊バーコード貼り付け、引き当てによるコンピュータ入力

### (3) 学校図書館利用計画の策定

#### ① 国語学習との関連

各学年の国語の学習に合わせ関連図書の整備を図る。

#### ② 調べ学習との関連

社会科や総合学習等での調べ学習に関する利用を促進する。

#### ③ 図書館利用の指導

- ・コンピュータによる貸し出し、返却
- ・個人バーコードの利用の仕方
- ・本の分類と配架場所
- ・コンピュータ検索
- ・資料の調べ方

### (4) 読書活動の推進

#### ・ 市配本図書の利用

市配本図書を学級文庫として利用する。毎月市図書館から配本をうけ、各学級に配本し学級での読書習慣を育てる。

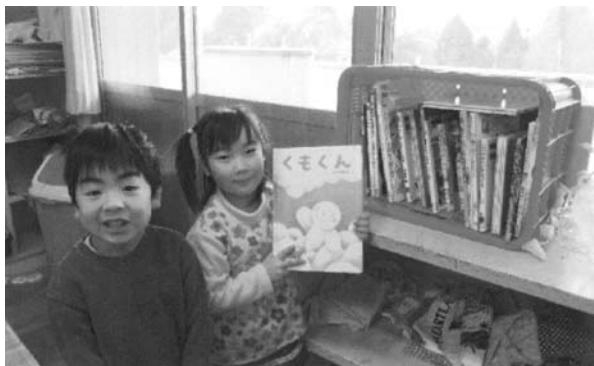
- ・図書委員会における図書紹介や図書に関するゲーム大会を開くことにより読書に関する関心意欲を高める

### (5) 児童の変容と成果

- ・コンピュータによるデータベース化により、図書委員会の児童でも簡単に作業でき、積極的に活動するようになった。
- ・読みたい本の検索や予約が出来るので図書利用の関心が高まった。

## 実 践 活 動 の 例

### 学級文庫に配本



→  
おすすめコーナーの作成  
低中高に分けてそれぞれのブロック  
に合う本を選んで 配架した。



→  
読み聞かせボランティアによる  
読みきかせ会



毎月市より配本を受け学級  
文庫に配本した。

←

### おすすめコーナー



→  
じゅうたんに座って読書  
低い円テーブルに座って  
読める環境づくり



←

社会科調べ学習のようす  
各教科において、図書館の  
利用を図る。

## 1 学校の概要

本校は昭和22年に創立され、現在21学級の中規模校である。JR郡山駅から南に5.6kmの郊外の新興住宅地に位置し、近隣に様々なイベントが開催される県立のビッグパレットふくしまや市立安積図書館などの文化施設がある。一方、水芭蕉の咲く成山公園、桜の堤で有名な笛原川があり、自然にも恵まれた環境にある。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館の概要

図書室は校舎の4階の北側に位置し、夏は暑く冬は寒いため、特に1階となる学年はどうしても足が遠のきがちになる。図書室には様々な利用可能な情報があるのに生徒達が積極的に利用していないと感じ、何とかしなければと考えていた。今回のデータベース化を機に、生徒への広報活動を充実させることはもとより、より多くの先生方に目を向けてもらうためにも、図書室からおもしろい、役に立つ情報を発信いくことがまず先決だと考えた。

### (2) 資源共有化を生かす活動

#### ① 生徒への広報活動の充実

- ・図書委員や先生方を対象としたデータベース化の講習会を開催
- ・図書委員による「図書だより」の発行
- ・週1回ライブラリーアワーを放送
- ・新刊図書紹介プリントを作成し、各階に新刊図書コーナーの設置



- ・図書室の入り口近くにポップの活用した「私たちの今読むコーナー」の設置



- ② 先生方に対する図書室からの情報発信
  - ・「データベース化」による利点の周知
  - ・「朝の読書」の効果と進め方
  - ・本の選定を職員室でできるよう配慮
  - ・図書選定委員会の設置
  - ・公共図書館との連携
  - ・「パスファインダー」の紹介
  - ・「読み聞かせ」の効果、方法、お薦めの本などの紹介



### (3) 実践例・・・総合的な学習の時間「職業リサーチ大作戦」(1年)について

- ① 「職業リサーチ大作戦」のねらい
  - ・実社会にある数多くの職業について、幅広く知る。
  - ・職業を調べる過程で、資料（本）を使った調べ方を身につける。
  - ・職業に関する興味を育てる。

## ② 学習の流れ

- ・20才、40才における自分の姿について作文を書く。
- ・「働くってどんなこと?」というテーマでパネルディスカッションを行う。
- ・職業調べ・・・・職業ごとに分かれて、ビデオや、資料を使って調べる。

〈調べ方〉

(ア) 2時間(5時間目にビデオを見て、6時間目は図書を使って調べる)を3日間設定。

(イ) 1人で3つの異なる職業について調べる。

- ・夏休みの課題・・・「私が将来なりたい(または興味がある)職業について調べる。」

## ③ 事前の準備

- ・図書館にある本から職業調べに適している本を選び出す。
- ・公共図書館から本を借りる。
- ・資料がある50の職業に絞り、生徒からアンケートをとる。
- ・職業が載っている本などのリストを作成する。
- ・本などにないものは、CD-ROMやインターネットで検索できるよう準備する。



## 3 生徒の変容と成果

(1) 図書室から情報を発信していくことで、調べ学習で図書室を利用する先生方が増えるとともに、より多くの生徒達が図書室を利用するようになってきた。

〈主な理由〉

- ・新刊本受け入れの迅速化、貸出・返却の簡素化が図られたため。

- ・生徒や先生が学校に目的の本があるかどうか容易に検索でき、本がない場合は公共図書館から借りてくるなど、情報を提供がスムーズに行えたため。

- ・データベース化のプログラムの入力やバーコード作成などについては、他の先生方の協力が得られたおかげで着実に進めることができ、図書室に興味を持ってくれる先生方も増えたため。

(2) 特に、1学年の総合学習では、事前に生徒達が使えるチェックリストを作成した。その作業の過程において図書室の本に偏りがあることがわかり、公共図書館から本を借りたり、CD-ROMを活用するなどして、生徒達が利用する様々な資料を準備することができた。

調べ学習の際、生徒達が何をどこまでするかが理解できれば、生徒達は主体的に活動できる。また、段階を追つて繰り返しやっていくことで、情報を探し出し、整理し、記録することができるようになった。



# 郡山市立安積第二中学校

郡山市安積町成田字兎田向 1-1

## 1. 学校概要

本校は、昭和63年4月に創立された。安積地区の地域開発により、ベッドタウン化が進み、安積中学校より分離した学校である。

稲作農家を代々営む農家の多い農業地域と新興住宅で、国道沿いの企業や商店街などが混在した地域にある。

学級数は10、生徒数は271人の中規模学校である。生徒は素直で、全体として、落ち着いた雰囲気で学業に取り組んでいる。

## 2. 実践概要

### (1) 学校図書館の概要

本校の学校図書館は、昭和63年の開校時に設置され、現在の蔵書数は、約9,630冊を有している。開館19年を経るが、室内はカーペット敷きの明るくきれいな作りになっており、落ち着いた雰囲気で読書に親しめる環境を有している。

平成16年、国の「資源共有化」施策に基づき「学校図書館資源共有型モデル地域」として「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」の実践協力校の指定を受けた。同年7月より図書資料のデータベース化を進め、平成17年度より、コンピュータによる貸し出し、返却作業をスタートさせ、現在に至っている。

### (2) 組織・目標等

#### ①組織

学校図書館担当教員（含む司書補）2名  
学校図書館司書補1名 図書委員20名

#### ②重点目標及び指導目標

- ・読書を通して心を豊かにする。
- ・進んで図書館資料を活用し、自ら学ぶ力を養う。
- ・読書の喜びを知り、読書に親しむ生徒が増えるよう工夫する。
- ・生徒が使いやすい図書館にする。

### (3) 本校の主な取り組み

#### ①親しみやすく利用しやすい魅力ある図書館作り

- ア. 図書館の改良
- イ. 貸し出し・返却作業のコンピュータ利用
- ウ. 図書新聞「ライブラリーニュース」の発行
- エ. 図書館専用のPR用棚の設置とその有効活用
- オ. 図書委員会の活動の充実



昇降口そばに設置されている図書館専用のPR用棚。新刊案内や季節毎にテーマ別に特集を組むなどして、定期的に書籍紹介をしている。



#### ②学習活動を支援する情報センター作り

- ・インターネットの活用
- ・ビデオ機器の活用
- ・コンピュータ検索による蔵書案内
- ・新聞・雑誌のファイリング

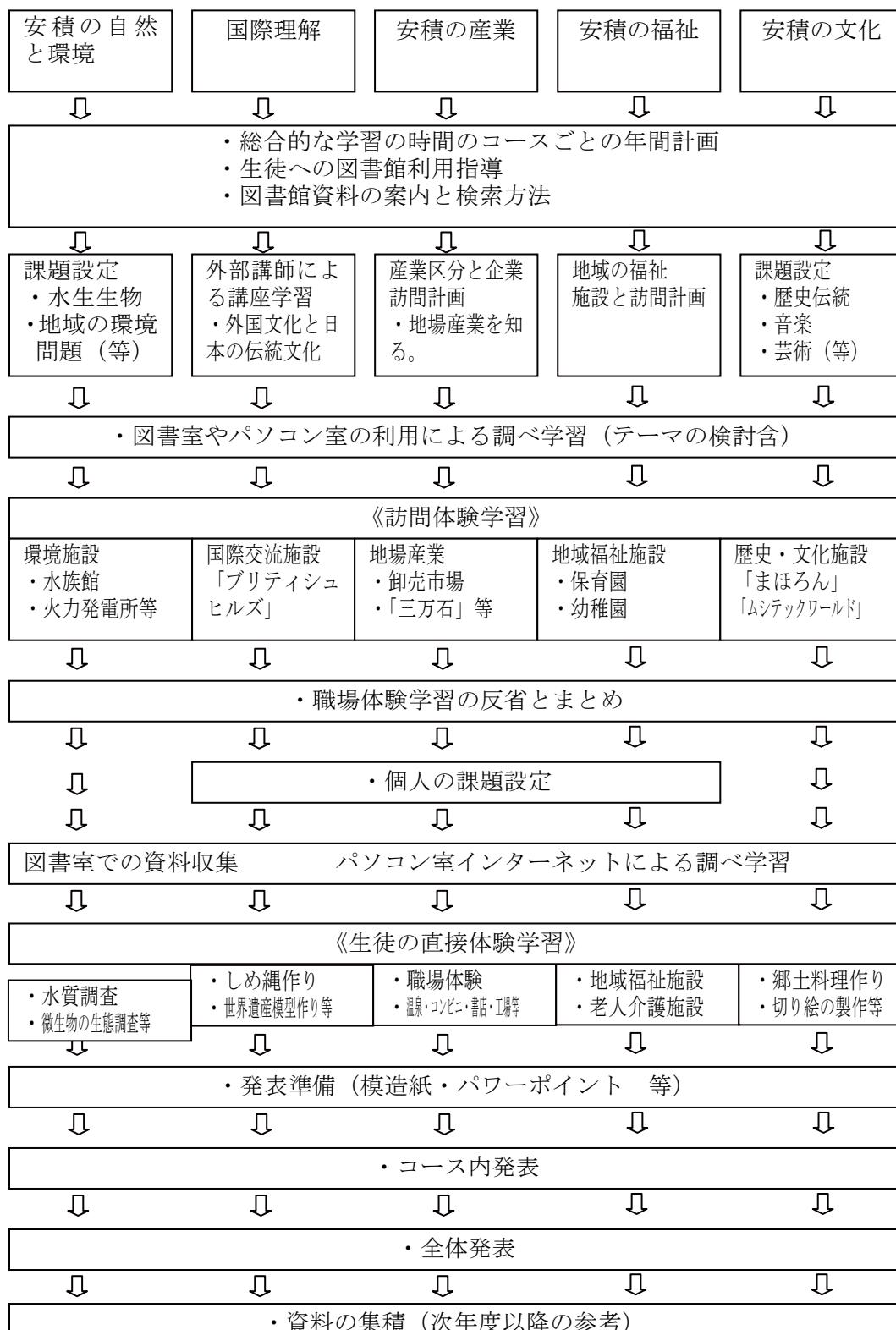
## 3. 生徒の変容と成果

- (1) 貸し出し冊数の増加
- (2) 来館生徒数の増加
- (3) パソコン検索者の増加

## 学校図書館資源共有化を生かした実践例～安積第二中学校～

### 《総合的な学習の時間実践例》

1年生から3年生までの縦割りで、個人の興味・関心に基づき、5コースに分かれての課題追究を行っている。



## 1 学校概要

本校は昭和36年に創立。三つの小学校から生徒が集まっている。全校生徒120名、6学級の小規模校である。

三穂田地区は農村地帯であり、豊かな自然に恵まれている。学校と地域とのつながりも強く、地区運動会や方部ごとの祭礼などに中学生も積極的に参加し、地域の一員として活動している。

## 2 実践概要

### (1) 本校図書館の概要

図書室は校舎の中央である2階に位置し、蔵書数約9000冊、パソコンによる管理運営開始から3年目を迎えていた。

開館時間は授業時の他には昼休みと放課後であるが、司書補が図書室に常駐しているので、休み時間に図書室に気軽に立ち寄る生徒も見られ、生徒にとって非常に身近な存在となっている。

### (2) 生徒の実態と実践のねらい

今年度の本校図書館教育における重点目標は貸出冊数(読書冊数)を増やし、年間読書冊数0の生徒をなくすことである。総合的な学習の時間を中心に、調べ学習等で図書室に来室する生徒は非常に多い。しかし、それが必ずしも貸出冊数や読書冊数に反映されていない現状を改善し、まずは調べ読みから読み物を中心とした読書へ、さらに読書の習慣化・日常化へと変容を図ることを目標とした。そのために国語科や総合的な学習の時間に読書に親しむ時間を設けた。

### (3) 主な実践内容

#### ① 図書室利用の活性化を図るために

- 図書室利用オリエンテーション

(4月 1学年)

- 図書便りの発行 (年間通して)

- 生徒の手による図書室掲示の工夫  
(年間通して)

#### ② 読書の習慣化を図るために

- 夏休み前の読書指導・感想文指導  
(7~10月 全学年)

#### ・ 国語の時間を活用した読書紹介

(7~10月 1, 2学年)

#### ・ 総合の時間を使ったブックトーク

(11~12月 2学年)

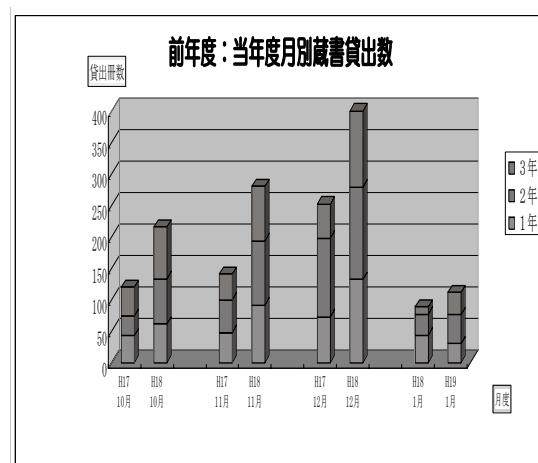
#### ・ 教職員による読書紹介の掲示

(12月 全学年)

- 学級文庫の設置と朝読タイムの設定  
(年間通して)

## 3 児童・生徒の変容と成果

読書に対する姿勢が変わり、貸出数も前年度と比べて各学年とも飛躍的に増加している。主な要因としては、職員一丸となり、「読書が脳の活性化につながる。」などの効果を指導していること、積極的に読書紹介に努め、選書に悩んでいる生徒に間接的なアドバイスが出来たことなどがあげられる。また、蔵書情報のデータベース化により、読みたい本の検索が容易になったことも大きい。



## 資源共有を生かした図書館づくり～郡山市立三穂田中学校～

### 掲示板の充実化

#### 図書委員会による掲示物



卒業生の活躍



生徒主体の作成物



### 良い雰囲気づくり

#### 図書館に足を運びやすい環境づくり



休憩時間の様子



展示の工夫



# 郡山市立逢瀬中学校

郡山市逢瀬町多田野字長倉山1番地の1

## 1 学校概要

本校は、郡山市の西に位置し、全校生137名の小規模校である。田園の広がる緑豊かな土地と温かい地域・家庭の中で、生徒達は素直で明るく育っている。生徒一人一人の「国語力」の向上をめざし、平成16年度より、全校態勢で読書活動を推進している。

## 2 実践概要

### (1) 総合的な学習の時間「逢瀬タイム」

「逢瀬タイム」は、IからIIIの3つの柱からなる。「逢瀬タイムIII創造型」では、「国語力」の向上を図るために、朝の10分間読書と国語科との関連を明確に教育計画に位置づけて、読書活動と創作活動を行っている。また、全職員で「生活全体での言語指導」にあたるとともに、「図書館・パソコン室の有効活用」「時間割の工夫」なども連携しながら行っている。各学年や学級のアイディアも取り入れ、3年生では、郡山市在住の中学生対象の文学賞「久米賞・百合子賞」への作品制作と応募に、3年の担任と国語科が協力して取り組んでいる。他に「新聞記事の利用」「修了文集制作」「群読」「学級文庫」等、興味や関心を持たせ、読書で培った国語力を高める工夫をしている。



### (2) 国語科の取り組み

適宜図書館中心の授業を展開するとともに、「お薦めの本紹介」の新聞づくりや発表、調べ学習や事実を基にしての意見文制作などに力を入れている。インターネットの利用等、情報活用能力の育成も図り、パソコン・プロジェクター等の機器も、授業の中で随時活用している。

### (3) 学校図書館・専門委員会の取り組み

図書館担当教員と司書補が連携し、全職員の協力を得ながら様々な活動を行っている。「パス・ファインダー作成」「ガイドンス」「本の選定、廃棄、希望図書の募集」「統計」「本の貸し出し（常時）」「閲覧室の常時開放」「朝の読書・授業・調べ学習の支援」等、図書館は、学校の教育活動の中核として、読書・学習・情報センターとしての役割を果たしている。

また、生徒による専門委員会では、「『OH S E L i b r a r y』（図書館だより）の発行」「『ライブラリーアワー』（給食時）の放送」「図書紹介（ポスター・掲示物）」などの活動を行い、図書館の利用や読書の啓発に努めている。また、毎年文化祭に行われる校内意見文発表会は、図書委員会が企画・運営にあたっている。

### (4) 家庭との連携、地域との連携

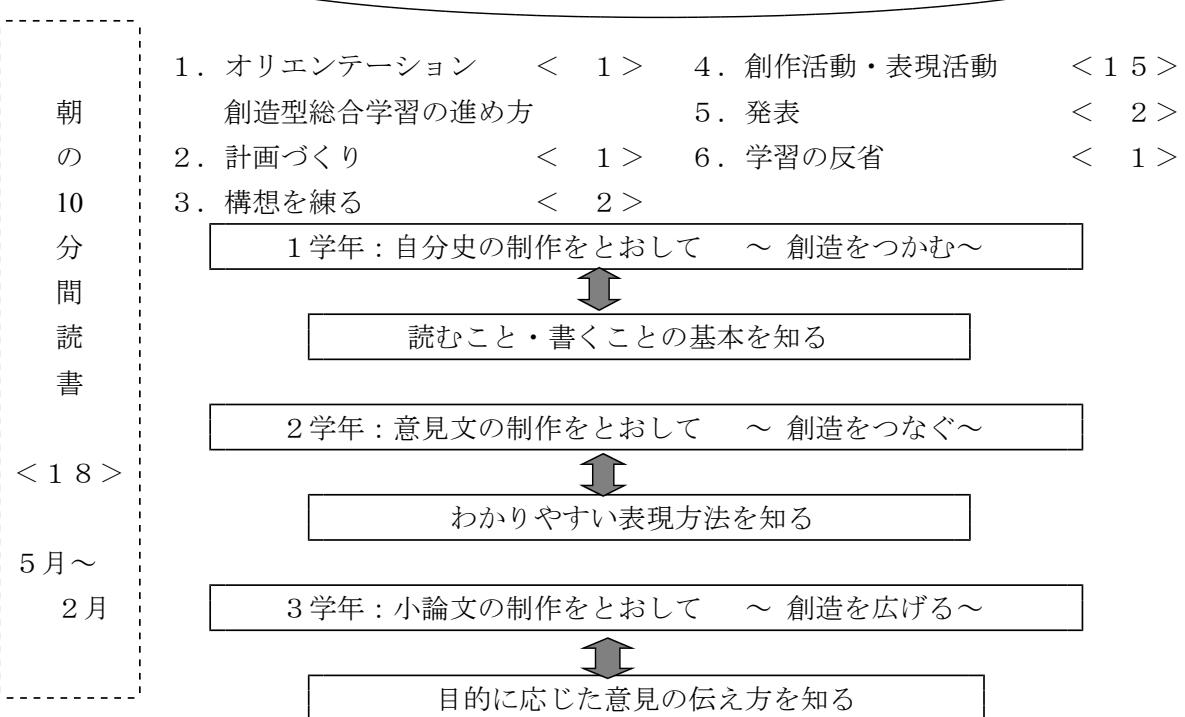
- ① 学校「図書館だより」全家庭への配布
- ② 郡山市立図書館の「郡山市図書館だより」（毎月）全家庭に印刷配布
- ③ こおりやま文学の森「各種イベント・企画展の広報・案内」などの掲示・配布

## 3 生徒の変容と成果

総合的な学習の時間を活用し、読書活動を教育活動に位置づけての実践は、教職員の共通理解も図ることができ、極めて効果的だった。また、「データベース化」により、図書館業務が効率化され、利用数が大幅に伸びている。

- 読書量が増加した。
- 読書活動が生徒一人一人の国語力をはぐくみ、様々な場面での活用がなされている。
- 課題解決の方法を学び、状況に応じた学び方の自己選択と自力解決がみられるようになった。

### 逢瀬タイムⅢ(国語科との関わり) 40時間



総合学習 ポスターセッション風景



～図書館での調べ学習から～



図書館「お薦めの本」

9月テーマ「平和」「国際理解」



昼休みの貸出活動

# 郡山市立喜久田中学校

郡山市喜久田町堀之内字下上の台 19

## 1. 学校概要

本校は昭和22年に創立され、今年で60年を迎える。郡山市郊外に位置し、田畠や木木の緑に囲まれた美しい環境にある。父母や祖父母も本校の卒業生という家庭が多く、学校や教育に関心の高い地域である。

学級数8、生徒数204人。生徒は素直で規範意識も高く、落ち着いて学習や部活動に取り組む雰囲気である。学区内に書店はなく本を求めるには市街地に出かける必要がある

## 2. 実践概要

### (1) 学校図書館の概要

昭和63年に新設され、蔵書数8,489冊司書補1名が常勤しており、昨年度図書館資料のデータベース化が完了した。2階中央の多目的スペースに接する126m<sup>2</sup>の図書館は生徒が利用しやすい好位置にある。

### (2) 目標と組織

#### ① 目 標

教育目標「自立心」～体づくり、頭づくり、心づくり～に従い、豊かな人間性を育てるための読書指導を推進する。

#### ② 組 織

図書館担当教員1名（司書教諭）

司書補1名、図書委員16名

### (3) 本校の実践

#### ① 開かれた図書館

常時開館しており、休み時間ごとに自由に入り出し、貸借、読書が可能である。図書委員の当番割り当ては昼休みと放課後。

本の検索や配架場所の問い合わせも相次ぐ



3年生を中心  
に大勢の生徒が  
利用する。本を  
仲立ちにした憩  
いの場となる。

#### ② データベース化

貸し出し、返却が短時間で行えるようになつたため、図書室の利用促進、読書意欲の喚起につながった。検索も集計も効率化され、委員会活動の幅が広がった。

#### ③ 利用指導

新入生へのオリエンテーションにより、利用の仕方や資料活用の仕方をきめ細かく指導する。2、3年生へのマナー確認も広報活動や委員を通じて年度当初に行う。

閉館時の返却は廊下のかごに入れることでも可能とした。

#### ④ 朝の読書

一昨年度より毎朝の10分間読書を行っている。静かに読書する時間として定着している。

#### ⑤ 魅力ある図書館作り

「まずは足を運びたくなる図書館経営」を念頭に、工夫を行っている。

ア 図書館便り、ライブラリーアワー（昼の放送）によるPRと啓蒙活動

イ 配架の工夫

- ・出入り口のカウンターに、最近人気の図書コーナーを設置している。
- ・図書館の外側廊下に展示コーナーを設け、時節やテーマに応じた図書の紹介を行う。

ウ 読書クイズ

エ 教職員による「私の1冊」紹介

オ 図書以外の資料の充実

## 3. 生徒の変容と成果

- ・データベース化と図書館の活性化のための工夫により、図書館への関心が高まり、利用が促進された。
- ・他校や市立図書館との連携による物流促進への期待は大きく、求める資料の入手が容易になれば、さらに情報センターとしての機能の充実が図れる。

〈本校の取り組みから〉 ~郡山市立喜久田中学校~

1. 教科との連携

- 授業への貸し出し

たとえば、戦争や原爆に関する資料を一括展示、貸し出しできる。

辞書はクラスに一かご貸し出し。出席番号と同じナンバーのものを借りるのがルールです。



2. 総合学習との連携

1年～学習旅行

調べ学習に必要なガイドブック、パンフレットやリーフレットもストックしておきます。

2年～職業調べ

昨年度の利用状況をチェックし、資料も充実しました。



3年～郷土の歴史調べ

資料集めに一苦労。資料の共有化の必要性を実感しました。

3. 行事、教科外活動との連携

〈教職員のお薦めの1冊〉



〈

進路学習～資料はここにも〉



〈図書委員 読み聞かせ中〉

〈季節の掲示が図書室に誘う〉



〈読書週間、読書クイズがあちこちに〉



〈時間外返却はこのかごへ〉



## 1 学校概要

本校は、昭和22年に開校された創立59年の伝統校である。中核市郡山の南部に位置し豊かな自然に囲まれた地域にある。現在は学級数6、生徒数178名、教職員16名の小規模校である。図書館は、校舎2階の中央に位置し、各教室から短時間で移動しやすい場所にある。また、専任の司書補が配属されているため、開館されている時間が長く、利用できる時間が確保されている。生徒が、いつでも本を閲覧できる大変恵まれた環境である。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館蔵書管理システムの整備

コンピュータ化により、学校図書館蔵書管理システムが導入され、全蔵書をコンピュータ入力しデータベースが作成された。そのため、目録カードの作成が省かれ、事務の合理化が図られた。

### (2) 図書館内環境の整備と充実

#### ①書架の配置替え・本のディスプレイ

書架と閲覧机の配置替えを行い、図書館の入り口付近には、新刊図書や月ごとのテーマに関する本の特集コーナーを設けている。また、生徒の興味・関心や注目度を考え、ブックエンドを活用して、本の表紙が見えるようにディスプレイするなど工夫している。

#### ②畳スペースの設置

畳スペースを設置して、テーブルを置き、布のテーブルクロスをかけて親しみやすくあたたかみのある空間づくりを行った。また、畳のスペースには、「お薦めの本」がディスプレイされ、生徒が気軽に本を手にできるようにしている。

#### ③図書館広報活動の工夫

月ごとに季節感のある掲示物を作成して張り替えている。この掲示版は、図書館廊下側にあり、生徒の目にふれる機会が多いため、広報活動には効果的である。中学生が興味をもつような月ごとのテーマに関する本の紹介や新刊図書の紹介なども行い、読書の幅を広げるための情報を提供している。

### (3)図書委員会活動の活性化

図書委員は、各クラス2、3名の生徒により構成され、活動期間は前期・後期のⅡ期制である。第1回の委員会では、「図書委員会のしおり」を活用して、委員としての心がまえや活動内容を確認している。図書委員の主な活動としては、本の貸し出し当番、「図書館だより」作成、ライブラリー放送・掲示物作成の3つの仕事がある。司書補の支援により、毎月活動している。

#### ①本の貸し出し当番

コンピュータによる本の貸し出しや返却を担当している。また、その日の本の貸し出し集計や図書館日誌の記入も担当している。

#### ②「図書館だより」の作成

毎月「図書だより」をパソコンで作成し発行している。人気本のランキング、新刊図書や多読者の紹介をして、生徒の情報源として読書への関心を高めている。

#### ③ライブラリー放送の実施

視聴覚委員会による昼の放送では、毎週木曜日にライブラリーの番組を設け、月ごとのテーマに関する本の紹介や「図書委員お薦めの本」の紹介を実施している。

### (4) 学習センターとしての図書館経営

#### ①郷土学習資料の充実

1年生は郷土の学習を行うため、郷土に関する調べ学習ができるよう郡山市の環境や歴史などの資料やデータが収集されている。

#### ②総合的な学習の時間の支援

各学年の総合的な学習の時間の年間計画に対応して、司書補がパスファインダーを作成している。生徒は、自分のテーマに関する本を探しやすく調べ学習に活用している。また、授業中も司書補によるレファレンスサービスにより、生徒は個人のテーマに関する多様な資料収集が可能である。各学年の総合学習で調べ学習が実施できるように、本が計画的に購入され充実してきた。

#### ③新聞コーナーの設置

全国紙や地方紙を閲覧できるように新聞コーナーを設けている。

#### ④図書館利用オリエンテーションの実施

新入生を対象に4月に1時間行い、「図書館利用のしおり」を使用して、図書館の利用の仕方やマナー、本の配置や十進分類法についても説明し、実際に本も貸し出している。

#### (5) 本に親しむ生徒の育成

##### ①月ごとの読書テーマの設定

毎月、司書補と図書委員会で読書のテーマを設定し、テーマに関する本の特集コーナーを設けて、多様な分野の本にふれる環境づくりに努めている。

##### ②生徒購入希望図書アンケート実施

年に一回、生徒に購入して欲しい本のアンケートを実施している。生徒は、本への関心が高まり、新刊が届くのを心待ちにしていた。

##### ③本の予約サービス

読みたい本が必ず読めるように、人気のある本は予約して順番に読めるようにしている。

##### ④多読者へ手作りしおりのプレゼント

本を十冊読むと、司書補が手作りしたしおりがもらえる。

### 3 生徒の変容と成果

図書館の運営にコンピュータが導入され、データベース化されたことにより、本の貸し出しや返却など、生徒の図書館利用の関心が高まった。また、図書館の全蔵書のコンピュータ入力に伴い、図書委員が本のバーコードシール張りの作業を手伝ったことは、図書委員としての成就感を味わえたようである。

図書館に畳のスペースを設置したことは、生徒にとって親しみのある空間となり、ゆったりと本にふれる時間をもたらすことができた。図書館内外のアイディアあふれる掲示物は、生徒の本への関心を高め、本の情報源として効果的である。

総合的な学習の時間では、図書館を利用した調べ学習のメディアセンターとして重要な役割を果たしている。司書補が作成したパスファインダーやレファレンスサービスにより、生徒は、個人に応じた情報収集が可能になり、学習の充実が図られるようになった。今後は、各教科の授業実践の中にも、図書館利用が計画的に位置づけられるようになることが課題である。



月のテーマに関する本のコーナー



図書館廊下掲示物



図書委員の活動の様子



総合的な学習時間の授業風景

## 1 学校概要

本校は、昭和22年に創立され、まもなく創立六十周年を迎える。現在学級数22、生徒数643名。郡山市の中心市街地に位置しており、交通の利便性もよく、周辺には小学校・高等学校も点在している。また、公共図書館も徒歩圏内にあり、連携が取りやすい環境下にある。

生徒はとても素直で、「健康・自主・創造」の教育目標のもと、学業や部活動に熱心に取り組んでいる。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館の実態

平成2年度より本校に図書館司書補が配置され、図書館主任、司書教諭だけではまかないきれない図書館業務に携わっている。蔵書数は12839冊。一日平均来館者数は100名ほど。授業では、主に国語、社会、家庭科、選択教科、総合的な学習の時間で使用されている。データベース化されており、バーコードにより管理・貸し出しが行われている。また、学校経営方針として、読書の持つ大きな意味を理解し、生涯にわたる読書習慣が身につくよう、全校体制で毎朝「朝の読書」などの読書指導が行われている。

### (2) 重点目標の設定

- ・生徒の人間性の伸長、およびあらゆる学習活動に必要な図書・資料の収集を図ると同時に、メディアと利用者の出会いの場としての図書館にする。
- ・図書および図書館の適切な利用の方法、態度などを指導するとともに、図書愛好の精神を養わせる。

### (3) 目標達成のための図書館活動

#### ①図書館オリエンテーションの工夫

年度初めに図書館オリエンテーションを実施し、基礎的な図書館活用法の指導を司書補とのTTの授業で行った。この際、ブックトークなども取り入れ、「三中生に読んでほしい本」の紹介を行い、生徒達が図書館の本との会えるきっかけづくりを行っている。また、このオリエンテーションは、特別支援学級の生徒たちにも行っている。

#### ②情報活用能力の育成

多くの情報から自分にとって有用な情報を選択・収集していく情報リテラシーを、総合的に指導・支援できる場としての学校図書館をめざして、活動している。授業では、総合的な学習の時間や国語の調べ学習等で、レポートをまとめるまでの一連の情報探索行動への支援を行った。例えば、キーワードから分類を探って書架を調べる方法、インターネットと図書二つの利点、著作権の問題など、現実的な課題解決の中で、情報リテラシー自身につけられるよう、工夫している。

#### ③利用者と学習情報メディアの出会いの場の工夫

利用者が出会いたい情報を準備するため、調べ学習などではあらかじめ、教科担任と打ち合わせをして、テーマに見合う図書を蔵書検索し、一覧にして提供するなどしている。また、本校でまかないきれない資料は、公共図書館から長期の貸し出しなども行って、利用者によりよい情報を提供できるようにしている。図書館内には、学習に役立つ本、教科書と関連した本を図書館に別置して、生徒への紹介している。

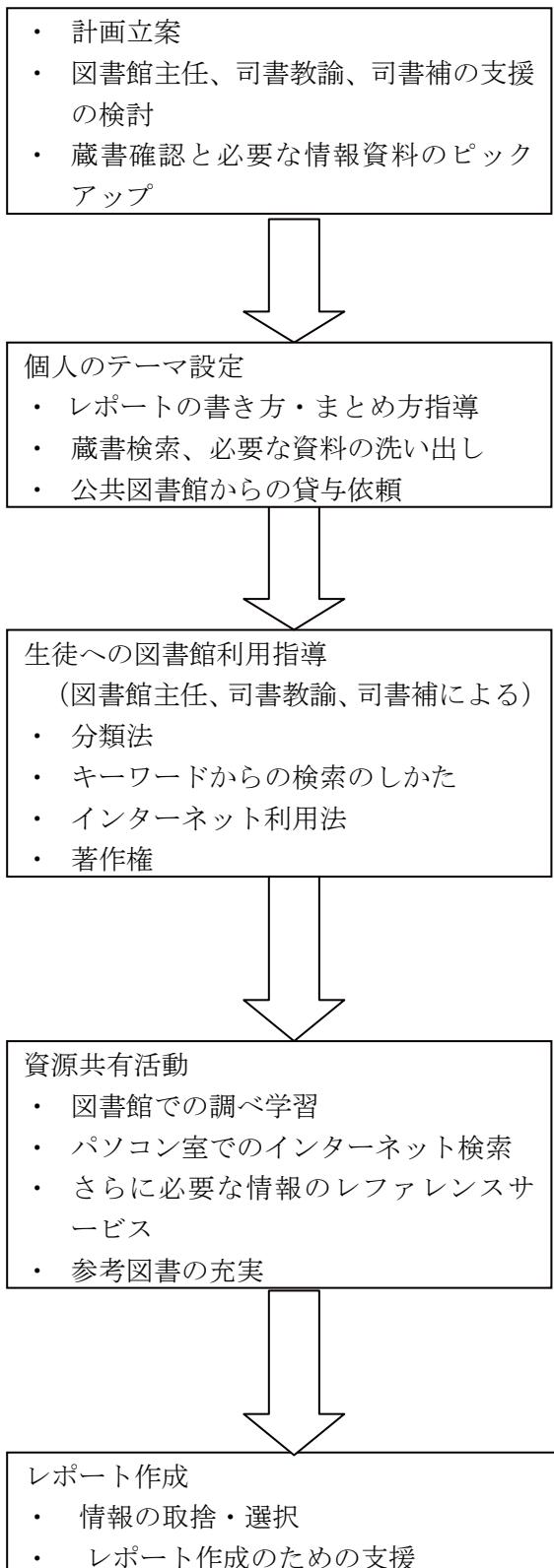
調べたいものがあいまいな利用者へは、新刊紹介、推薦図書、ブックトークなどで出会いの場を作る様にした。また、今年度から、1年生対象に「読み聞かせ」も行い、図書への興味・関心が高まるような活動を行っている。



1 学年への読み聞かせ

## 1 本校での実践例

〈1学年 総合的な学習の時間での実践例〉  
テーマ：「食」に対する考えを深め、より安全で健康的な生活に関する理解を深める。



レポート完成後は、各自での発表・展示を行い、この学習のまとめとした。

また、これらの学習の成果として、体験活動に出かけ、食に関する知識・理解を深めることができた。

## 2 成果と課題

- 資源共有を活用する学習の実現のため可能なかぎり教科担任と連携したり、総合の時間の活用について、学校全体に提案できた。
- 資源共有のための情報リテラシー教育について、生徒に体験的活動の中から学ばせるように工夫・実践できた。
- 多くの資料を活用したり、取捨選択させるなど、資料の提供がスムーズにできるようになった。
- 分類や配架、参考図書の使い方、インターネットの利用法を知ることにより、生徒の情報探索行動がスムーズに行われるようになった。この指導は必須であると考える。
- 先生方の意識が高まった。教職員版図書館だより等の発行、職員会議での提案により、授業で活用してみたいという先生方が増えた。
- 司書教諭が専任でないために、指導の時間がなかなか取れない。学び方の指導が大事であるのはわかっているのだが、時間が確保できないため、1学年ごとの取り組みが限界である。
- 図書館活用の指導は、継続的、体系的組織的な指導と考え、しっかりとした育成計画のもとすすめていかなければならぬ。しかし、先生方により学び方の大切さの理解に差があるため、それを埋めていくのがたいへんである。年間指導計画を作成する段階で、教職員の共通理解を図りながらすすめていくことが大切である。

## 1 学校概要

本校は、昭和22年に開校し、今年で62周年を迎える伝統ある学校である。学校の東側には阿武隈川が流れ、豊かな自然に恵まれた学校である。

現在、学級数15、生徒数420名の中規模校である。保護者の中には本校出身の方もおり、地域・保護者から多くの支援、協力を得ている。

公共図書館との連携ということで、総合的な学習の時間等で、調べる学習を取り入れ、利用している。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館教育の基本目標

- 豊かな読書経験の場を提供することにより、より広い視野に立った人生観や社会観を身につけるための一助にする。
- 読書に興味と関心をもたせ、積極的に読書に取り組ませることにより、心身の発達に伴って生ずる諸問題を、自ら解決しようとする意欲を持たせる。
- 自主的・自発的に学習に取り組み、問題の発見解決ができるような資料を豊富に収集する。

### (2) 資源共有を生かす組織活動

#### ①図書館教育部

司書教諭、国語部、司書補を中心 に、計画の立案、運営を行っている。

#### ②生徒の図書委員会の活性化

- ・日常の貸し出しと返却
- ・読書週間の取り組み
- ・長期休業中の貸し出し強化
- ・図書だより・ポスターの発行
- ・配架の工夫
- ・図書館環境作り
- ・コンピュータ利用

### (3) 学校図書館利用計画の策定

#### ①年間指導計画とリンク

年間指導計画をもとに、読書活動や各教科及び総合的な学習の時間等での調べる学習等、計画的に利用するとともに、図書の貸借を行っている。

#### ②利用指導の徹底

年度当初、学校図書館司書補によるオリエンテーションを1単位時間とり、全生徒を対象に学校図書館の利用の仕方や図書資料の扱い方について学習している。

#### [指導内容]

- ・利用指導・個人カードの使い方
- ・本の分類と配架場所
- ・コンピュータ検索方法

### (4) 読書活動の推進

- 1 巡回図書の利用
- 2 朝の読書(10分間)
- 3 昼の放送における新刊本の紹介

## 4 生徒の変容と変化

- ・データベース化により、貸し出しや返却の手続きが簡単になり、図書利用の関心が高まり、利用が増えた。
- ・課題解決学習等で利用することで、主体的な学びの姿が多く見られ、図書資料の活用能力が高まった。
- ・情報センターとして、情報を提供するだけでなく、資料活用の力を育成する場になりつつある。
- ・館内にあるもののそれぞれの利点を生かし、活発に活動することができるようになった。

# ～学校図書館資源共有化を生かした実践例～

郡山市立郡山第四中学校

## 学校図書館を利用した学習活動の推進



### 個別コーナーの設置

個別コーナーの設置により、調べ学習もスムーズに行えるようになりました。



### 授業風景

パスファインダーを利用することにより、「調べ方」を知ることもできるようになります。



### プロジェクター利用による授業

## 読書活動の推進



### 巡回図書

本を選んでいる生徒たちの顔はみんなイキイキしています。



### 朝の読書

どの生徒も集中して読書に取り組んでいます。



### コンピュータによる貸出

貸出・返却の手続きも迅速に行えます。読書への関心も高まりました。

## 図書館環境の整備



### 掲示物作成

図書委員会の活動も活発になり、月替わりで掲示物を作成しています。



### 「読んでみよう」コーナーの設置

目で見て楽しむ配架をすることにより、今まで手に取りにくかった図書を手に取る生徒も増えました。



### 館内展示

「今月の特集」として、季節に合った図書を展示しています。



### 予約の本コーナー

人気のある本は予約が立て込みます。データベース化により、予約の管理も容易になりました。



### オススメの本・話題の本コーナー

新着本もこちらに配架されます。休み時間には生徒で埋め尽くされます。

## 1 学校概要

郡山市のほぼ中央に位置し、クラス数24、生徒数721名の大規模校である。教育目標に、「自学」「共生」「自立」を掲げ、自他を愛し夢をはぐくむ心豊かな生徒の育成に努めている。



## 2 実践概要

「生きる力」の育成を目指して、教科、道徳、学活、総合的な学習での学校図書館の利用を促進してきた。また、図書館のデータ・ベース化の導入により、「学習センター」としての機能の充実を図っている。さらに、読書活動の推進に当たっては、生徒会図書専門委員会が活発に活動している。

### (1) 学習センターとしての学校図書館の活用

#### ①各教科との連携

学校図書館を各教科や総合的な学習における調べ学習の拠点として利用している。図書館には専従の司書補があり、教科担当者と連携し、必要な書籍類を準備し、スムーズに活動ができる。また、図書館内のパソコンを使い、書籍に加えて、インターネットによる情報収集が可能である。

#### ②市内ネットワークによる図書の検索

書籍のデータはすべてパソコンに入力済みで、貸出・返却に加え、職員用・生徒用パソコンから本の検索や蔵書点検が可能で、授業に有効活用している。さらに、市内の学校図書館の蔵書検索も可能になっている。

### (2) 読書活動の推進

#### ①校内読書週間の設定

春のサンジョルディーの日、秋の全国読書週間を挟んで2週間程度を年2回の「校内読書週間」としている。生徒会図書専門委員会は図書便り、校内放送を通して本の紹介をしたり、ポスターを作成して読書の呼びかけを行っている。



<生徒会図書委員会の活動>

#### ②図書館での読み聞かせ

- 平成17年度から月に1回、ボランティアによる読み聞かせを実施している。
- 平成18年度から月1回程度、本校教師による読み聞かせを実施している。



<ボランティアによる読み聞かせ>



<職員による読み聞かせ>

### ③職員の「愛読書紹介」

年に2回、夏休み前と秋の読書週間前に生徒会図書専門委員会の活動として実施している。全職員に「愛読書」の紹介文を書いていただき、生徒が描いた似顔絵とともに図書室前の廊下に掲示している。



<職員の「愛読書紹介」>

### ④朝の全校読書

平成18年度から登校後、短学活までの10分間、毎日全校で取り組んでいる。各教室には学級文庫を設置しており、本の準備をしていない生徒に活用されている。学級文庫は月1回ローテーションしている。



<朝の読書>

### ⑤校内推薦図書「3年間で読んでみよう100冊」の設定

国語科の教科書を参考に選定した。全校生に100冊の一覧を配布し、国語の教科

書に貼り付け、チェックしていくよう指導している。選定した100冊は、図書館に1つのコーナーを作り配置した。それぞれの本には4色のシールを貼り（「読んでみよう100冊」ピンク、「1年生へのお薦めの本」青、「2年生へのお薦めの本」赤、「3年生へのお薦めの本」緑）、わかりやすくしている。掲示物や書架にも工夫した。（職員手作りの書架。）

### 3 生徒の変容と成果

○データ・ベース化により本の検索が容易になり、調べ学習がスムーズに進み、適切な本を選定し、より深い学習ができるようになった。

○「読み聞かせ」では、様々な本と触れ合うことを通して、新たな分野の本にも興味が持てるようになった。また、読書の楽しさを感じ、読書への意欲の向上へつながっている。

○職員の「愛読書紹介」は、生徒が大変興味を持っており、本を選ぶ際の参考になっている。職員の協力に感謝している。

○「朝の読書」は、時間が無くてなかなか読書できなかった生徒にとってかけがえのない時間となっている。読書に興味のなかった生徒にとっては「読書しなくてはならない時間」からのスタートであったが、読書の楽しさに気づき、時間があると自然に本を開くようになっている生徒もいる。「学級文庫」も、「朝の読書」の徹底に効果がある。また、「朝の読書」の実施により、余裕を持った登校ができるようになり、落ち着いた雰囲気で1日がスタートできるようになった。

○「校内推薦図書」は、選書で悩む生徒に大変役立っている。分野、時代も様々でどのような生徒にも対応できるものとなっていて、利用頻度が高い。

## 1 学校概要

本校は昭和22年に開校し、今年で59周年を迎える伝統ある学校である。市の中 心部より約2km西方の新興住宅街に位置 している。

現在、学級数29、生徒数895名の大 規模校である。明るく素直な生徒が多く、 学業に部活動に熱心に取り組んでいる。特 に部活動では、各種大会で上位入賞を果た すなど好成績を収めている。

## 2 実践概要

### (1) 資源共有を生かす組織と環境づくり

#### ①図書館教育部

学校図書館司書教諭、国語科部会、学 校図書館司書補を中心に計6名で計画の 立案・運営を行っている。

#### ②生徒会図書委員会の活性化

図書常任委員（各学級1名計29名）

図書委員（各学級3名計87名）

#### ・日常の貸し出し、返却作業

#### (2) 校時目の休み時間・昼休み・放課後)

#### ・図書の啓蒙活動

(呼びかけ・ポスター制作・図書だより の発行)

#### ・読書会の実施

#### ・校内読書感想文コンクール第1次審査

#### ・読書週間に向けての取り組み

(呼びかけ、ポスター制作)

#### ③利用しやすい図書館づくり

・平成15年度に図書館が改修され、教 室2つ分の広いスペースとなった。中 央に仕切りが設けられ、2クラスの同 時利用も可能になった。

・図書館の開館時には、當時学校図書館 司書補があり、生徒に対応している。

・パソコンが設置され、バーコード化も

実現し、貸出・返却作業や検索が容易 になった。

- ・図書館の掲示板を利用した本の紹介コ ーナーの他にも、図書委員おすすめの 本のコーナー、国際理解のコーナーな どが効果的に整備され、生徒の興味・ 関心を喚起している。

### (2) 本校の学校図書館努力目標

- ①学校図書館のしくみを理解させ、図書 の利用を通じ学習効果を高め、更に教 養の向上に役立てる態度を養う。
- ②図書館教育のための諸計画の実践にあ たり、分担された仕事の責任を果たす。

### (3) 目標達成のための図書館活動

- ①図書館利用オリエンテーションの実施
- ②読書センターや資料・情報センターと して、教育活動に寄与する開かれた図 書館づくりを目指している。
- ③全校で毎朝十分間の読書活動を実施し、 各自の自由な読書活動を推進する。
- ④校内読書感想文コンクールや読書会に よる学習効果や豊かな情操の向上
- ⑤年間指導計画に基づいた購入計画を推 進する。公共図書館からの図書の借り 受けを行う。

## 3 生徒の変容と成果

本校は部活動が盛んであるが、従来生徒 の読書に対する関心は低かった。また図書 館が北校舎の4階に位置しており、年間を 通じて特定の生徒のみの利用となっていた。

しかし、利用しやすい図書館づくりの工 夫により、読書に対する意欲が高まり、3 年間で図書館の利用者や生徒の読書量が 大幅に増加した。

## 学校図書館資源共有を生かした実践例

1 1年生を対象とした図書館利用のオリエンテーション

2 朝の十分間読書



3 授業での読み聞かせ  
(図書館司書補)



(生徒相互で)



4 総合的な学習の時間での調べ学習  
公共図書館からの図書の借り受け

5 図書館の整備充実  
(国際理解コーナー)



(図書委員おすすめの本 百冊コーナー)



# 郡山市立郡山第七中学校

郡山市大槻町字原田西4番地

## 1 学校概要

本校は昭和54年4月に生徒数442名で開校した、市内で24番目の中学校である。現在は学級数26学級生徒数760名の大規模校である。開校から10年間は「校風と伝統の基礎づくり」に重点をおき、その後においては校風と伝統の基礎づくりとともに教育活動や教育内容に重点をおいてきた。本校では学校図書館が学習・情報および読書センターとしてより活性化させるためにも2003年度の郡山市資源共有ネットワーク推進事業に参加し学校図書館蔵書をデータベース化した。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館の概要

図書室は昭和61年に開設され、現在の蔵書数は14640冊。データベース化以前には平成10・11・12年に学校図書館情報化活性化事業のモデル校として図書室に当時としてはめずらしいインターネット接続のパソコンが設置された。それ以前は読むための図書室だったがパソコンが當時使用可能なため授業等での図書室利用は活発になった。平成15年のデータベース化により図書室での調べ学習はますます盛んに行われるようになった。

### (2) 目標

- ・図書館活動を活発にし、図書館資料の利用・読書（朝の読書を含む）に親しみやすい雰囲気つくりを行う。
- ・各教科、選択教科、総合学習などにおいて自ら学びとする学習の場、支援の場読書教育を行う場となるように研究する
- ・オリエンテーションを実施し図書館利用のあり方について研究する。

### (3) 取り組み

- ・図書館の環境つくりに留意し生徒の読書意欲を増進させるよう工夫する。
- ・開館時間は一日中とし、生徒および教師がいつでも利用できる状態にする。
- ・図書購入については選定委員会を設置して偏った蔵書にならないよう留意する。
- ・掲示教育の連携のもとに効果的な広報活動をすすめる。
- ・昼休みのライブラリーアワーで読書の啓蒙をする。
- ・朝の読書の啓蒙を含めて図書委員の活動を活発にする。
- ・図書館を学習情報センターとして位置づけ教育の拠点とする。
- ・調べ学習では図書館資料・コンピュータ（インターネット、CD-ROM、DVDなど）を積極的に活用して学習環境を拡大させる。
- ・隣接小学校との小中連携を実施し、資料の相互貸借を行う。

## 3 成果と課題

データベース化により生徒の貸し出し冊数が毎年増加していった。また読書だけではなく自主学習のための図書館利用者（図書資料の検索、インターネットの活用も含む）が多くなった。

図書館担当者の成果として日計、読書傾向の把握や蔵書管理が容易になり、生徒との情報交換やレファレンス支援の時間が確保できるようになった。

データベース化により隣接小学校の蔵書が閲覧でき、自校図書室にない資料を小学校から借りることにより、より効果的な調べ学習を展開することができた。

ほぼ毎日のように活用されている。主な教科は各学年とも国語・社会・選択教科・総合・道徳など。国語の教科では国語辞典、漢和辞典のクラス単位の常時貸し出し。英語は英和辞典、和英辞典のクラス単位の貸し出し。朝から放課後まで開館しているので生徒は授業中でも自由に図書館を利用できる。図書の整備・充実を図るために公共図書館からの団体貸し出しと隣接学校からの相互貸借を実施している。



1年社会科調べ学習 パスファインダー（学習がスムーズに進められるようキーワード等を書き込んだ一枚のリーフレット）を活用しての授業



2年選択国語



3年国語



お勧めの本や課題図書等をカウンターに置き  
読みの啓蒙を図っている。



昼休みは読書を楽しむ生徒であふれている。  
(1日平均100名)

## 1 学校概要

本校は、郡山市の北部に位置し、近くを東北自動車道、国道バイパスが走る住宅地の中にある。生徒数 568 人、19 クラス、職員数 45 名の学校である。図書館の広さは 177 m<sup>2</sup> と比較的広く、2 階層ある。2 階にあり、職員室や教室からも近いので、利用が多い。常時開館しており、司書補が常駐している。先生方の協力のもとに「朝の読書」など読書指導が行われている。

## 2 実践概要

富田中学校図書館教育目標は次のとおりである。

- 自ら学ぶ意欲を養い、豊かな心を育てる学校図書館
- 学習情報センター、読書センターとしての学校図書館の管理運営
  - 学ぶ意欲を培う情報活用能力の育成
  - 読書活動の充実と豊かな心を育てる指導

目標達成のために次のような実践をした。

- (1) 学習情報センター、読書センターとしての学校図書館の管理運営
  - ① データベースによる貸出・管理をする。
  - ② 先生方の利用を進める。
    - ・先生方向けの「図書館便り」の発行
    - ・「図書選定廃棄委員会」設置
  - ③ 授業に必要なメディア資料を充実させる。
    - ・百科事典、図鑑など
    - ・新聞、情報ファイル、CD、DVD、VTR など
  - ④ 「学校図書館利用年間計画」を作成し、各教科での図書館利用を進める。
- (2) 学ぶ意欲を培う情報活用能力の育成

- ① 情報・メディアの使い方などの利用指導を行う。

- ② 国語科による「情報活用能力育成計画」を作成し、授業での活用を図る。

- (3) 読書活動の充実と豊かな心を育てる指導

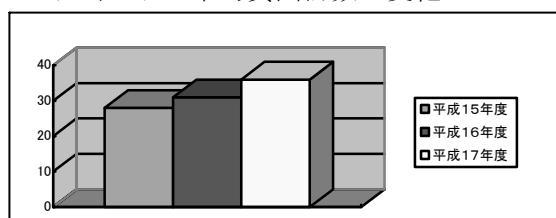
- ① 図書館の環境を整える。
  - ・学習スペース、読書スペースの確保
  - ・ブラウジングコーナーの設置
  - ・推薦図書コーナーなどの展示の工夫

- ② 読書活動・行事を充実させる。
  - ・「朝の読書」の充実
  - ・「目指せ 10000 ページ」による読書記録の実施
  - ・「富田中学校推薦図書 50 冊」の選定
  - ・「先生方のオススメの本」
  - ・クラス対抗「読書パズル」の実施

- ③ 委員会の活動を充実させる。
  - ・図書委員による学級文庫の選定

## 3 生徒の変容と成果

### 1 日当たりの平均貸出冊数の変化



- (1) データベース化により貸出や返却が簡単になったため、1 日当たりの平均貸出冊数が増加している。
- (2) 学期ごとの生徒の自己評価では、ほとんどの生徒が積極的に読書活動に取り組んでいると答えている。
- (3) 総合的な学習の時間をはじめとして、各教科での図書館利用回数が増えている。
- (4) 生徒は、放課後等の自主学習に、先生方も授業の準備や教材研究に図書館を利用するようになった。

## 学校図書館資源共有化を生かした実践例～富田中学校～

### 【学習情報センターとしての図書館】



●「調べ学習のしかた」



●学習スペース

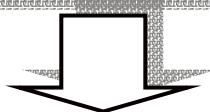


●他校から借りた資料

「郡山市について知ろう！」をテーマとした総合的な学習では、「柳橋歌舞伎」について調べるために、他校から資料を借りた。



- ・必要な資料を自分で探せる生徒
- ・進んで読書をする生徒



●パソコンによる貸出

### 【読書センターとしての図書館】

朝の読書をはじめとして、読書活動を進めるためのさまざまな工夫をしている



●「目指せ 10000 ページ」



●ブラウジングスペース



●富田中学校推薦図書リスト



●月間テーマによる展示



●先生方オススメの本



●クラス対抗「読書パズル」

## 1 学校概要

本校は、昭和36年に創立され、現在13学級の中規模校。郡山駅の東約3km、阿武隈川のほとりに位置する広々とした好環境にある。3年越しの校舎大規模改修工事が終わり、新しい快適な施設設備で生徒達はのびのびと活動している。

## 2 実践概要

### (1) 学校図書館の概要

現在蔵書数約12000冊。平成15年度より図書資料のデータベース化によりコンピュータによる貸出・返却作業がスタートした。

校舎大規模改修工事に伴い、書架と同室の閲覧スペースのほかに、隣接して閲覧室が設けられた。オープンスペースとして使用すれば、2学級同時に使用できる席が確保された。また反対側には、和室・コンピュータ室が隣接され読書センター・学習センター双方の機能を十分に生かせる造りになった。

### (2) 本校の図書館教育目標

生徒の学習に対する興味・関心を高め、様々な資料や情報を選択し活用する能力を育てるとともに、読書に親しみ想像性豊かな生徒の育成に努める。

### (3) 本校の主な取り組み

#### ① 資源共有に向けて

- ・コンピュータ導入までの計画立案
- ・全職員への連絡、協力依頼
- ・市担当者との連絡調整
- ・コンピュータ操作・利用法等に関する研修会（職員対象・図書委員生徒対象）

#### ② 読書センターとして

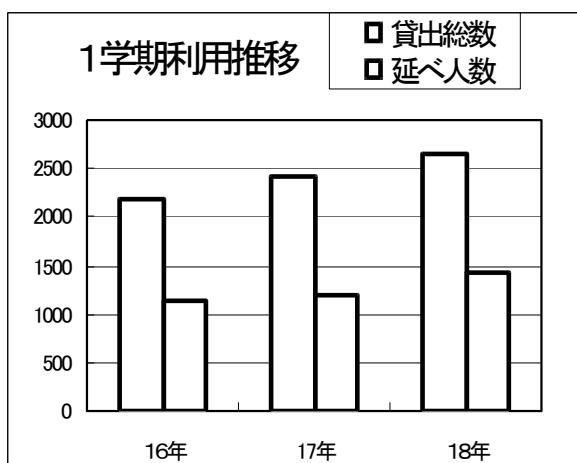
- ・オリエンテーションによる利用の指導
- ・必読書「本との出会い100冊」の選定配架
- ・国語教科書に出てくる教材関連図書の

### 選定・配架

- ・学級文庫への貸出（全学級対象に各30冊）
  - ・朝の読書
  - ・読書週間の設定
  - ・図書だよりの発行（司書発行のものと図書委員生徒発行のもの）
  - ・新刊紹介（新聞・掲示・校内放送で）
  - ・ライブラリーアワー（校内放送による啓蒙）
  - ・多読賞の設定・表彰
  - ・学級対抗読書量コンクール
  - ・季節感あふれる掲示・配架
  - ・図書委員会の活動の充実
- ③ 学習センターとして
- ・インターネットの活用
  - ・図書の団体貸出の活用
  - ・パンフレットや新聞のファイリング

## 3 生徒の変容と成果

### (1) 図書の貸出冊数の増加



#### 〈主な理由〉

データベース化により、貸出や返却の手続きが簡単になったため。

公共図書館や他校の本を借りることで、自分が必要とする本を確実に利用できるようになったため。

### (2) インターネットを活用する生徒の増加

【写真資料】

郡山市立小原田中学校



〔国語の教科書に載っている読書案内〕



〔閲覧コーナー（2室続き）〕



〔生徒による貸し出し、返却風景〕



〔書 架〕

## 調査研究協力校

| 小学校                   |         | 中学校     |
|-----------------------|---------|---------|
| 日和田小学校                | 開成小学校   | 安積中学校   |
| 行健小学校                 | 桃見台小学校  | 安積第二中学校 |
| 行健第二小学校               | 薰小学校    | 三穂田中学校  |
| 行徳小学校                 | 富田小学校   | 逢瀬中学校   |
| 安積第一小学校               | 富田東小学校  | 喜久田中学校  |
| 安積第三小学校               | 富田西小学校  | 高瀬中学校   |
| 永盛小学校                 | 大槻小学校   | 郡山第三中学校 |
| 河内小学校                 | 白岩小学校   | 郡山第四中学校 |
| 喜久田小学校                | 東芳小学校   | 郡山第五中学校 |
| 上伊豆島小学校               | 桜小学校    | 郡山第六中学校 |
| 湖南小学校<br>湖南中学校（小中一貫校） | 大島小学校   | 郡山第七中学校 |
| 御代田小学校                | 小山田小学校  | 富田中学校   |
| 高瀬小学校                 | 朝日が丘小学校 | 小原田中学校  |
| 芳山小学校                 | 宮城小学校   |         |
| 橋小学校                  | 御館小学校   |         |
| 小原田小学校                |         |         |

平成16年度～平成18年度  
文部科学省 「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」

### 実践資料「学校図書館資源共有に関する実践集」

発行・編集 : 福島県郡市教育委員会  
〒963-8601 福島県郡山市朝日1-23-7  
TEL 024(924)2431 FAX 024(935)5610  
Mail [gakkyo@city.koriyama.fukushima.jp](mailto:gakkyo@city.koriyama.fukushima.jp)  
発行年月日 : 平成19年3月31日